

六稜會報

NO. 11 1978・9・15

昭和53年9月15日発行
 発行 府立北野高等学校内
 六稜同窓会
 〒532 淀川区新北野2丁目5-13
 電話 06(303)5661代表
 振替 大阪68025
 編集 山本次郎・溝脇正巳
 印刷 藤江コロタイプ印刷株式会社
 電話 06(762)1868代表

11月3日(文化の日)

総会は母校講堂!!

スポーツ親善試合、パーティーは新体育館で!!
 佐伯祐三先輩の名画も公開!!

六稜同窓生の皆様、お元気ですか。

本年度の六稜同窓会総会は昨年と同じ11月3日母校で、下記のとおり行うことになりましたので、御案内申し上げます。ことしは盛り沢山の企画を準備しておりますので、どうか御家族連れで大挙御参加下さいませように。

スポーツ親善試合

運動場

【野球】

11時プレイ

ボール

野球部OB 対

北野職員チーム

【ラグビー】

12時半キックオフ

六稜ラガー

紅白親善試合

ミニ個展

図書館2階

佐伯祐三画伯(30期・大正6)の名画観賞

「ノートル・ダム(マント・ラ・ジョリ)」(母校所蔵)

「レストラン」「パリ市街」(62期・田中陸君所蔵)他10点

2時 講堂 会務報告、会計報告その他

題「中国あれこれ」上野淳一朝日新聞社主(41期)

3時半 新体育館 会費 ¥2,500

御家族づれ大歓迎 ¥1,500(何人にてても可)

テニスコート

【テニス】10時

日本庭球協会常任理事長谷川寛治先生のテニス教室

初心者歓迎 ラケット・ボール貸します

服装、クツは自前

11時 現役OB

親善試合

新体育館

【バスケット】9時

現役OB 3試合

【バレー】1時

現役OB親善試合

【柔道】【剣道】

随時御覧下さい



ガンバリ拍子 織田信男君

総
会
の
御
案
内

総 会
卓 話
親 善
パ ー テ ィ ー

体育館の落成

について

校長 泉 悌二

体育館は本年3月末に完成しましたが、4月4・5の両日には、府建築部の竣工検査が行われ、多少の手直しを経て、4月12日に第二次竣工検査があつて合格となり、4月13日に学校に移管されました。

学校はこれをうけて、4月17日に館内において体育館安全祈念式を行い、また落成式準備委員会を発足させました。

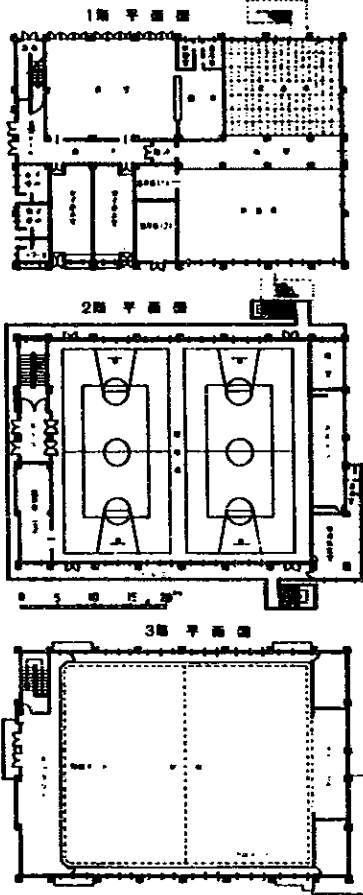
そして5月6日(土)午後2時から講堂において、多数の来賓の御列席の下、落成式を挙行了のです。そして、ひきつぎ午後3時からは、落成式第二部として館内食堂において祝賀会を催すとともに、真新しい一階柔剣道場および二階フロアにおいて、天王寺高東淀川高の各チームと、柔剣道・バレー・バスケットの招待試合を行いました。

体育館の規模等については別掲図のとおりですが、その延面積は食堂をのぞくと、もとのおよそ2.5倍になるのです。

当日は、平業クラブ指導等で格別お世話になっている先輩諸氏を中心にお招きしました。また同窓会有志の方々の御寄付により、体育館二階正面舞台の檼帳および幕物一式・カーテン一式を調製することができました。これらについては、その一枚一枚に六校同窓会の文字を刺繍し、永く記念と致しました。

ここに厚く御礼申し上げます。

体育館配置図



工事概要

設計	株式会社 坂内建築設計事務所
施工	株式会社 黒松組
工期	自 昭和52年6月 至 昭和53年3月
建設費	¥370,100,000
構造	鉄筋コンクリート造 3階建 屋根 鉄骨造
建築面積	1712.26㎡
延床積	3018.79㎡
内訳	1階 1465.50㎡ 2階 1360.83㎡ 3階 171.45㎡

今年の総会から

卓話 我が国防衛力の実体

元空将 植村英一(47期)

日本の防衛力の実力は？ また大規模な攻撃を受けた場合に何日位もち耐えられるか？と首う質問を度々受けるが之は仲々難かしい問題である。本日は我が国の防衛力はどんな構成で作られ、今後どんな考へ方で進もうとしているのか説明し度い。

昭和32年以来日米安保体制のもとで米国の戦力を期待しながら局地戦以下の侵略に有効に対応出来るものを目指して、第一次から昨年末第四次までの整備計画が段階的に進められて来た。しかし今後は防衛力を平時と有事に區別して考へる点と量の拡大よりも質の向上を重視する様になった。これは確固たる防衛態勢の下で小規模な侵略に対処可能で更に情勢の重要な変化に応じて円滑に有事態勢に移行出来る様に配慮されたものであるとされている。しかし私は此の構想は従来の考へ方から見て一步前進したものと思いますが、内容については疑問点問題点があります。

それは現有防衛力で限定された小規模の侵略事態に十分対処出来るかと断ずる事に大きな危険を感じる。特に航空防衛を考へる時、小規模な侵略でも相手国は600~700機を投入する事が可能で到底対応出来るものでない。また平時から有事態勢に移行出来る事が一つのねらいとされているが此の計画が何等明らかされていない点気懸りである。一体いざと言う時に政府はどれ位のリードタイムを見て準備にかゝるのか、この見通しによって平時防衛力のあり方にも大きな差異があります。

平時から有事への切替えは国政全般に及ぶものだけに為政者が特に真剣に取り組んでもらいものであります。之が私の制服時代から疑問に思っている問題点であります。(要旨)

寄付

52年総会時に阪急フラワーショップ(文達晴久君(S28卒))より総会場及び控室の生け花を、また高松組(高松孝之君(S31卒))よりパーティー会場のビニールシートをいただきました。また藤江コロタイプより会報10号印刷支払より増徴の7,492円を、本年4月には故高垣仟二郎氏(T15卒)の未亡人より金50,000円をご寄付いただきました。誠にありがとうございます。紙面をかり謹んで御礼申し上げます。

ゴルフ場のエントリー専用(コース150ヶ所)

阪神百貨店6階

阪神ゴルフガイドコーナー

藤田 政 江 (昭和28年卒)

コーナー専用電話 (06)341-2345・5566

水曜日定休

佐伯祐三画伯を偲ぶ

上野淳一 (41期・昭3)

今年は、佐伯祐三画伯没後50年に当たり、これにちなんで「佐伯祐三展」が京都国立近代美術館で開かれたが、引続いて東京・名古屋・福岡の各地で前後4ヶ月半以上に渉って催されている。

画伯は大正6年にわが北野中学を卒業され東京美術学校一第一次渡欧一帰国一第二次渡欧一30才で客死と、短かすぎる人生を歩まれたのであるが、その画業は益々高く評価されつづけており、日本人の洋画家としての地位はこゝに極った感さえある。

10年前の没後40年の時にも佐伯祐三展が開かれ、この時には151点が出品された。今回は“50年”ということで関係者は一段の努力を重ね、未公開作品も含めて200余点の個人展覧会としては決定版ともいふべき見事な展覧会となった。

わが北野高校はこの2回の展覧会に出品の「ノートル・ダム(マント・ラ・ジョリ)」と題する名作を所蔵している。佐伯画伯は同じ題の作品を三点描き、1926年いったん帰国した際にその中の一点を母校に寄贈したといわれる。私はその頃に在学していたが、図画の先生中村典興先生にはずっと授業を持っていたが、いながら「佐伯」の名前は一度もきかなかったし、その名作も見せてもらった記憶がない。中村先生は北中第7回(明治27年)の御卒業であるが「在学中から画家たらんと志していた佐伯を深く愛した中村先生を思慕して、第1回のバリ遊学から帰国した佐伯は自信のある「ノートルダム」を師にささげたのである」と、画伯と丸5年間同じクラスにいた故版本勝氏(元兵庫県知事)はその著「佐伯祐三」(昭和45年初版・日動出版部発行)に書いている。

先年、母校創立100年に当り、校長室に大切に蔵されているこの絵を間近に拝見する機会を持った。まぎれもない佐伯画伯の傑作であるが、惜しむらくは少々傷つき画面にカビを生じているようであった。100年記念事業の一つとして修理して元の姿に復元することが決められ、私が親しくしている黒江光男氏(東大美学卒、独立して西洋画の修理専門家となっている方)をお願いして診断を仰ぎ、おまかせして「黒江病院」へ入院、立派に修復成って帰校、創立100年の記念日には学校の最高の宝物的存在として陳列され、幾多の校友の眼に触れたことは御承知の方も多いこと、思う。

また、私の父精一(第13回・明治33年卒)はたまたま「新聞屋」と題する矢張り名作を所持していた。この絵は1927年の作品で第2回目の渡欧時代一バリ客死の直前と思われる一に描かれ、同年のサロン・ドートンヌに矢張り有名な「黄色い壁の家」と共に出品されており、作品の画面に「カフェ」「広告」などのように文字が入りはじめ画伯の晩年作品として、最も油の乗りきった、鋭く、真実味にあふれた作品の一つである。

「新聞屋」は「幻の絵画」とされ、ながい間人目に触れることがなかったが、「佐伯大ファン」の一人である脇村義太郎東大名誉教授の「勸」から上野精一所蔵のことがわかり、父は「新聞屋」と題するところから朝日新聞社に寄贈してしまった。今回の展覧会には「幻の絵」もはじめて公開されている。

私は今回「佐伯祐三の人間像」という題を与えられたが、これには全く困り果てた。私は遂に佐伯画伯におめにかゝったことなくエピソードみたいなことも知らないし、美術の勉強をしたこともないのである。「佐伯祐三のアルバム」から

クタパルナ

×

今に見ろ。

×

水ゴリをしてもやりぬく、きっと俺はやりぬく
やりぬかねばをくものか。

×

死一病一仕事一愛一生活

とある5行に画伯の生活のすべてが結晶されているように見えてならない。画伯はまた「僕の絵は純粋か、純粋でないか。ほんとうか、ほんとうでないか。それを言ってくれ…」と絶えず友人に求め、反省をくりかえしてきた。上の「5行」はそれを乗り越え乗り越え、自ら語って自らを励まし、病身の苦しみにたえ抜いて、生と死のギリギリの所にまでたどりついたような壮絶さがある。佐伯画伯は天才ではない。努力に努力を積み重ねてきた鬼才である。芸術に「入魂」ということばがあるが、画伯の絵をくりかえし観ている中にそれがわかるような気がする。

わが六稜の魂は永遠に生きつづけるが、芸術に生き芸術に死んだ佐伯画伯の画業も亦永遠に生きつづけて、絶えず学び舎と同じくするわれわれを励ましつづけて下さる思がする。今回の展覧会の最後の部屋、出口に最も近いところに「扉」と題する1928年の作品がある。固く閉された画面一杯の「扉」には画伯が永遠に語りかける何ものかがある。それは「これで僕の事は終わったのだ」ともとれるし、扉の向う側には画伯のまだまだ描きたかったであろう無尽蔵の画材があり、「俺に続く者よ、この扉を開いてくれ」と語りかけているようにもとれる。

わが六稜の生んだ鬼才佐伯祐三画伯の御霊に深い感謝の念を捧げると共に、没後50年記念展によって佐伯芸術の迫真の精神に一人でも多く触れられんことを祈って拙稿一文を終ることにする。

なお、「没後50年記念佐伯祐三展」では完璧と思われる目録が出来ている。「佐伯祐三の人と芸術」の河北倫明氏をはじめ知友の追憶、作品目録、参考文献など今後画伯について語る人々の参考になるであろう。

(発行・朝日新聞社)



株式会社 鴻池組

取締役社長 鴻池 藤 一

会 務 報 告

第1回 常任理事会

S53. 6. 17(土)堂ビル清文社
出席常任理事 田村・緒方・大山・奥田・檜崎・山本・堤・丸野・梶本
学校側理事 佐々木・溝脇・阪田・作野・鳥飼(副会長 上野・鴻池)

1. 新理事紹介

鳥飼康子先生(S45卒)が新しく理事になられたこと。同窓会主任であられた佐賀真一先生(S8卒)が退職なさり、溝脇正巳先生(S28卒)が新しく同窓会主任になられたこと。

2. 東京六校同窓会

去る4月8日東京六校会を主宰なさっておられた高垣仟二郎氏が肝硬変のため死去なされたこと。上野氏より、そのお人柄を懐かしむこと、しばし。又、東京六校会総会がきわめて盛会であり高垣氏の恩にむくいることができた由報告あり。

3. 会計報告

別紙参照。既に各理事には報告済み。

4. 予算案

別紙参照。会計を整理するよう監事よりの指示があったので、一般会計、名簿特別会計、基金会計の3本立てとする。

5. 会報発行の件

広告を16~20件確保する。大を5万円、小を3万円とする。
高垣氏の追悼文を1頁とる(写真入り)。総会案内に力を入れる。家族づれ可。年会費納入のベストテンを年度別に掲載する。

6. 理事会

7月22日(土)5時より清文社で開催する。会費を1,000円とする。議題は主として、会計報告、事業計画(総会・会報)年度の名簿依頼。

7. 総会

11月3日(金)、母校で開催する。会費を2,000円とする。(これは後にパ

ーティ経費と考え合わせて2,500円となる)。

次のような委員会を設置して、それぞれ責任者をきめる。

- A. 企画委員会 田村・緒方
- B. 体育クラブ連絡会 日高・山本
- C. 会場等保全委員会 梶本

以上大体昨年通りとし、細部は学校にて打ち合わせる。

第1回 企画委員会

S53. 7. 4(火)校長室

出席者 田村・緒方・奥田・檜崎・堤
梶本

学校側 佐々木・溝脇

1. 総会会場

総会一講堂、パーティー会場一食堂、試合場一運動場・新体育館、受付一玄関・旧図書館前、展示一図書館・教室、控室一校長室・応接室・会議室とする。

2. 時間配当

役員集合10時、受付開始11時30分、試合終了1時30分、総会開始14時、パーティー開宴15時30分、パーティー終了16時30分、片付清掃終了18時とする。

3. 総会次第

総会 司会 奥田亘

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 名誉会長挨拶
- (4) 東京六校会代表挨拶
- (5) 会務報告
- (6) 卓話—上野淳一氏
- (7) 閉会

パーティー 司会 檜崎浩二

- (1) 開会の辞
- (2) 乾杯—出席者の最長老
- ：
- 閉会の辞

4. 役員

- (1) 委員長 田村

- (2) 総務 緒方・大山・奥田・檜崎
佐々木・溝脇
- (3) 受付・案内 堤・丸野
- (4) クラブ試合後始末 日高・山本
- (5) 絵画展示 溝脇・梶本
- (6) 後始末総点検 梶本
- (7) アナウンス 学校の方で

5. その他

- (1) 手拭い注文 600枚
- (2) 鞋入れ(ビニール袋)一新体育館はスリッパで
- (3) スリッパ購入 100足
- (4) 昼食、運動部は各クラブで用意。
- (5) パーティーは、学校食堂で。約400人を見込んで。
- (6) 新体育館落成記念手拭の販売 2枚1組2,000円。

運動クラブ連絡会

S53. 7. 22(土)学校会議室

責任者 日高 常任理事代表 田村
同窓会主任 溝脇
出席クラブ バスケットボール(岩田・西田) テニス(中出) 柔道(川畑・高村) 剣道(西田) 卓球(重内) ラグビー(日高) 体操(原田・佐藤) バレーボール(猪俣)

野球部は当日、大阪予選出場のため応援に総動員のために欠席するも、ラグビーと既に打合せ済み。卓球、体操は不参加決定。

1. 場所 運動場、新体育館、テニスコート

2. 時間配当及び試合内容

(1) 運動場 野球—職員対OB11時より。ラグビー—OB対OB(30代中心)12時より

(2) テニスコート

テニス教室10時より。高体連テニス部名誉部長・日本庭球協会常任理事、長谷川寛治先生。初心者歓迎。ラケット・ボール貸します。服装、クツは個人で。

テニス試合 現役対OB11時より
(3) 新体育館

バスケット3試合9時より

財団法人 洪庵記念会

産 科 婦 人 科 緒 方 病 院

緒方正美(53回)・緒方正世(54回)・緒方正名(56回)

大阪市東区今橋3丁目18番地 電話 06(231)3255・3256・3257

バレー 13時より

柔道・剣道

3. 会場設営、後始末はクラブの責任で。
4. 運動用具はユニホーム等個人に関するものは各人持参のこと。体育教官室へは絶対に立ち入らぬこと。
5. 総会費(2,500円)は出来ればクラブの責任者が集金の上、受付まで持参のこと。
6. 昼食は各クラブで注文用意すること。
7. 必ず現役のクラブ顧問の先生と連絡をとり合うこと。

第1回 理事会

S 53. 7. 22(土)堂ビル清文社

1. 開会
2. 会計報告(会計報告欄参照)
3. 予算 本年度より一般会計・名簿特別会計・基金会計の3本立てとする。諸方常任理事よりくわしく説明あり。(予算欄参照)
4. 会報の件
 - (1) 故高垣仔二郎氏の追悼記事を1頁とる(川瀬勇氏、東京六棲会)
 - (2) 佐伯祐三について上野淳一氏が執筆。
 - (3) 広告について、大5万円、小3万円とする。20件程度確保。
 - (4) 物故職員、井岡・田畑先生、他にあれば通報のこと。
 - (5) 献酬等もお知らせ願いたい。
 - (6) 総会に家族づれで来るよう紙上勧誘する。家族1,500円
 - (7) その他前号規模。
 - (8) 発行は9月中旬予定。
5. 総会の件
 - (1) 11月3日(金)(時間等別紙参照)
 - (2) 母校、北野高校で。
 - (3) 会費 2,500円
 - (4) 企画委員会、体育クラブ連絡会など置くこと。
6. その他
 - (1) 入会金値上げの件、S 54年度入学より1,000円×3年間=3,000円

とする予定。

(2) 年会費値上げの件、S 54年度よりいくばくか値上げをしたい。

一別掲 総会の件一

1. 日時 11月3日(金)母校にて。
会費 2,500円(家族1,500円)
2. 会場 総会一講堂、パーティー一食堂、受付一玄関・旧図書館前、試合場一運動場・新体育館、展示一講堂・図書館2階、控室一校長室・応接室・会議室、201~206教室
3. 時間配当 別表参照
4. 次第

総会一司会 奥田亘氏

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 名誉会長挨拶
- (4) 東京六棲会代表挨拶
- (5) 会務報告
- (6) 会計報告
- (7) 卓話
- (8) 閉会

パーティー司会 檜崎浩二氏

- (1) 開会
- (2) 乾杯 その他

5. 詳細

卓話一上野淳一氏(30分)

クラブ関係 (ラグビー・野球・テニス・バレー・バスケットボール・柔道・剣道)

文化部 絵画・書道など展示

佐伯祐三の画の展示

販売 新体育館落成記念手拭2,000円

[校章・校歌(文字は日展審査員阿部先生)入スポーツタオル2枚組]

進呈 校章入手拭い(一昨年エンジ、昨年濃紺)

料理 学校食堂

購入 新体育館用スリッパ100足、靴入れ(ビニール袋)新体育館土足禁止。

会費 年会費とも振替で送るも可。

6. 役員

- (1) 委員長 田村
- (2) 総務 緒方・大山・奥田・檜崎 佐々木・溝脇

- (3) 受付案内 堤・丸野・作野・鳥飼
- (4) クラブ試合 日高・山本 文化クラブ 溝脇・梶本
- (5) 総会場・パーティー会場設営 梶本
- (6) 後始末一切総点検 梶本・阪田

六棲同窓会役員就任

- 理事・塚崎 定一(S 20年卒・58期)
 ♪ 鳥飼 康子(S 45年・82期)
 ♪ 内垣内満彦(S 53年・90期)
 ♪ 北條美妙子(S 53年・90期)

同窓会各期空席理事

補充のお願い!!

該当の学年は早く理事を決定の上本部までお知らせ下さい。60期までは男1名、61期より男1名女1名となっております。

なお理事不在の年度は次の通りです。

明治41まで

明治43・44・45

大正4・6・8・10・11

昭和12・14・27・31・32(女)・34・36

(女)・37(女)・39・40・42・43・44・46・47・49・50

各理事にお願い!!

名簿は全体を五十音順で!!

各期で名簿を作るよう努力して下さい。今度の会報発行のために、名簿を送っていただいた期は次の通り。

大正2 大正15 昭和13 昭和28

♪ 3 昭和3 ♪ 14 ♪ 32

♪ 4 ♪ 4 ♪ 15 ♪ 33

♪ 5 ♪ 5 ♪ 17 ♪ 34

♪ 9 ♪ 7 ♪ 18 37

♪ 11 ♪ 9 ♪ 19

♪ 13 ♪ 10 ♪ 20四

♪ 14 ♪ 11 ♪ 24中・25高

猶、名簿作成のおりは全体を五十音電話帳式にならべて下さい。整理に手間どりますので、クラス毎の名簿は作らないように各年度とも統一して下さい。



最新の技術と50年の経験を生かしたコンプレッサー及空圧製品の専門メーカー

株式会社 田邊空気機械製作所

本社・工場
名古屋工場
東京支店
名古屋営業所
広島営業所
九州営業所

大阪府摂津市千里丘2丁目14番6号
愛知県小牧市大字小牧800番地
東京都中央区日本橋室町1丁目6番地
愛知県小牧市大字小牧800番地
広島市広瀬町6-8
北九州市小倉区浅野2-17-46

☎代(06)(388)1331

☎代(0568)(76)4191

☎代(03)(279)2481

☎代(0568)(76)4191

☎代(0822)(32)8538

☎代(093)(531)1305

会 計 報 告

六稜同窓会 昭和52年度会計報告

昭和52年度一般会計報告

科 目	52年度予算	52年度決算	増 減
	円	円	円
収 入			
入 会 金	682,000	*1 681,500	▲ 500
利 息	30,000	13,504	▲ 16,496
雑 収 入	5,000	*2 7,492	2,492
前年度繰越金	614,557	614,557	0
計	1,331,557	1,317,053	▲ 14,504
支 出			
人 件 費	10,000	26,000	▲ 16,000
通信・事務費	100,000	30,710	69,290
会 費	200,000	158,255	41,745
総会補助費	100,000	*3 48,000	52,000
運送・交通費	30,000	4,260	25,740
旅 費	240,000	242,896	▲ 2,896
慶 弔 費	100,000	61,920	38,080
記 念 品 料	100,000	73,000	27,000
卒 業 祝 金	100,000	98,600	1,400
名簿引当金	200,000	200,000	0
雑 費	10,000	0	10,000
予 備 費	141,557	*4 82,000	59,557
計	1,331,557	1,025,643	305,914
次年度繰越金	0	291,410	291,410

昭和52年度特別会計報告

科 目	52年度予算	52年度決算	増 減
	円	円	円
収 入			
年 会 費	2,500,000	*1 2,045,000	▲ 455,000
臨 時 会 費	500,000	*2 486,000	▲ 14,000
広 告 収 入	500,000	*3 450,000	▲ 50,000
名 簿 売 上	36,000	*4 32,400	▲ 3,600
利 息	15,000	32,436	17,436
雑 収 入	5,000	0	▲ 5,000
一般会計より繰入金	100,000	0	▲ 100,000
前年度繰越金	1,018,839	1,018,839	0
計	4,674,839	4,064,675	▲ 610,164
支 出			
会 報 発 行 費	1,200,000	997,492	202,508
会 報 送 費	900,000	858,420	41,580
総 会 費	1,200,000	*5 893,580	306,420
人 件 費	100,000	0	100,000
事 務 費	15,000	4,870	10,130
振 替 手 数 料	100,000	99,550	150
雑 費	10,000	0	10,000
名簿引当金	500,000	500,000	0
基金繰入金	500,000	500,000	0
予 備 費	149,839	0	149,839
計	4,674,839	3,854,212	820,627
次年度繰入金	0	210,463	210,463

以上の通り昭和52年度六稜同窓会会計報告を致します。 昭和53年 5月12日

本会計報告の正確であることを認めます。

昭和52年度基金会計報告

科 目	52年度決算	摘 要
	円	
収 入		
前年度繰越金	11,743,056	金銭信託(大和銀行)
利 息	868,810	
新規積立金	500,000	定期預金(大和銀行)
計	13,111,866	
支 出	0	
次年度繰入金	13,111,866	

昭和52年度名簿積立金会計報告

科 目	52年度決算	摘 要
	円	
収 入		
前年度繰越金	1,200,000	特別会計へ一時融通
利 息	13,370	(S 52.9.28-53.4.24)
新規積立金	700,000	一般会計より200,000円
計	1,913,370	特別会計より500,000円
支 出	0	定期預金(大和銀行)
次年度繰入金	1,913,370	

昭和52年度梅林積立金会計報告

科 目	52年度決算	摘 要
	円	
収 入		
新規積立金	31,105	S 53年卒業生一同寄付
支 出	0	
次年度繰入金	31,105	

昭和52年度新体育館寄付金

科 目	52年度決算	摘 要
	円	
収 入		
寄付収入金	3,371,000	
支 出	3,200,000	新体育館建築費一式
次年度繰入金	171,000	

一般会計

- * 1 1,363人×500円
- * 2 藤江コロタイプ寄付
- * 3 総会手拭い600本
- * 4 東京六福会へ手拭い400本
- * 4 27冊×1,200円
- (1) 年度 始 577冊
- (2) 売 上 26冊
- 贈 呈 3冊
- 名簿訂正用 5冊
- (3) 残 部 543冊
- * 5 講演費 60,000円
- 会場設営費 234,550円
- 食堂支払い 455,200円
- 弁 当 75,000円
- 人 件 費 40,000円
- 通 信 費 14,300円
- 雑 費 14,630円

特別会計

- * 1 2,045人×1,000円
- * 2 243人×2,000円
- * 3 20,000円未収

年会費をお忘れなく!!

50年度から徴収をはじめました年会費のおかげで、事業が非常にやりやすくなったほか、今後の会報の発行も楽になり、基金会計もふくらんで、近い将来「六稜クラブ」の開設さえ夢ではなくなりそうになってきました。

そんな訳ですから、是非とも同封の振替用紙で折り返し年会費をご納入下さい。後からと置いておくと忘れやすから今すぐに。会費は年1,000円です。今回より総金会費(2,500円)を振り込んでいただいても結構です(10月22日まで)。

同封の振替用紙で併せてご納入下さい。(振替・大阪68025六稜同窓会)

昭和53年度予算

(昭和53年4月から54年3月まで)

昭和53年度より六稜同窓会の会計が次のように変わりました。従来の会計では会計の数も多く複雑ですので監事の指示に従い一般会計と特別会計を合わせたものを新しく一般会計とし、あと名簿特別会計と基金積立会計の3本立てにし、すっきりとした形を整えました。尚梅林会計、新体育館寄付会計は、一般会計に吸収し無くしてしまいます。従って新予算一般会計収入の部「9.他会計より受入」は本年度限りとなります。

一般会計

	予 算	備 考
I 収入の部	円	
1. 前年度繰越金	501,873	
2. 入会金収入	690,500	1381人×500円
3. 年会費収入	2,500,000	
4. 広告収入	400,000	
5. 臨時会費収入	500,000	
6. 寄付金収入	50,000	
7. 利息収入	50,000	
8. 雑収入	10,000	
9. 他会計より受入		
(1) 梅林会計	31,105	本年度限り
(2) 新体育館寄付金会計	171,000	本年度限り
収入合計	4,904,478	
II 支出の部	円	
1. 運営費		
(1) 人件費	150,000	
(2) 旅費・交通費	330,000	
(3) 通信費	50,000	
(4) 印刷・事務用品費	36,000	ゼロックス代等事務へ
(5) 会議費	200,000	
(6) 雑会費	850,000	
(7) 康平費	700,000	退職記念品料 480,000 卒業祝い 120,000 振替手数料を含む
(8) 雑費	150,000	
2. 会報発行費		
(1) 編集費	30,000	
(2) 印刷費	1,200,000	
(3) 発送費	900,000	
(4) 雑費	10,000	
3. 予備費	204,478	
4. 他会計へ支出		
(1) 基金積立会計	50,000	
(2) 名簿特別会計	50,000	
支出合計	4,904,478	
III 次年度繰越金	0	

名簿特別会計予算

	予 算	備 考
I 収入の部	円	
1. 前年度繰越金	1,913,370	
2. 名簿売上収入	24,000	
3. 広告収入	1,000	
4. 利息収入	20,000	
5. 一般会計より受入	50,000	
収入合計	2,008,370	
II 支出の部	円	
1. 編集費	1,000	
2. 印刷費	1,000	
3. 発送費	8,000	
4. 雑費	1,000	
支出合計	11,000	
III 次年度繰越金	1,997,370	

(注) 基金会計は予算なし

S53. 6. 17

第1回 常任理事会承認

S53. 7. 22

第1回 理事会承認

新体育館落成

幕物一式も同窓会の手で!!

○前号で紹介しました新体育館は、総工費370,100,000円、延床面積3,018,786m²の堂々たるもので、5月落成式を終えました。

六稜同窓会としては、これを記念に舞台のドン帳始めすべての幕類を寄贈致しました。費用は3,200,000円かかりましたが、一枚一枚に「六稜同窓会」という縫取りを入れて永く記念するようしておきました。

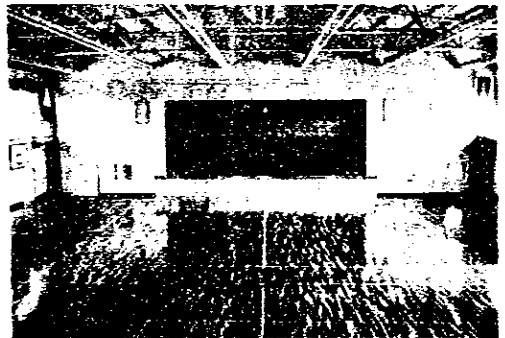
○なおこれに関連して、不要になった第1体育館を取り壊し撤去しました。懐かしい姿はもう見られません。

○又クラブ部室が新築され整備されました。

六稜同窓会代表 田村常任理事の目録贈呈



体育館2階球技場



気軽にお越しいただける

結婚の相談室です

日本ブライダル協会

松原 鉄男 (68回卒)

TEL 大阪 945-0677

〒540 大阪市東区谷町1丁目142

エルフ大手前415号室

北野の御意見番
せんまん
千万氏逝く



高垣仟二郎氏略歴

明治45年5月21日 尾道で生まる
大正15年3月 大阪府立北野中学校卒
昭和5年3月 大阪商科大学卒
同年4月 日本木槽木管株式会社入社
支配人を経て、専務取締役を永く御経歴後
昭和53年3月 相談役となり、同年4月8日、肝硬変の為、死去。

高垣兄と東京六稜会

根岸 要 (50期)

昭和32年、日本橋本町の十六銀行で龜山兄〔47期・当時支店長〕等と、東京六稜会を発足させる相談の席に、松山先輩〔38期〕が幹事役に最適な方だと同行されたのが、高垣先輩との初対面で、開口一番「俺は千万や」と自己紹介、我々の主旨に賛同され、その後は昨年御本人が会誌に東京六稜会が第20回に到る迄を回顧録として載せられたので、今更重ねて述べる事ありません。その間、東京六稜会を軌道に乗せ、同窓会の目的に沿って盛り上げる為にと、山本会長〔25期・当時朝日麦酒社長〕共々回を重ねる程に熱の入れ方が加はって来、山本会長御他界後は、その分迄一手に引受け東奔西走、日本木槽木管の専務の重職にあり乍ら、時間を割いては時には夜遅く迄打合せを行い、時には往時の江崎校長指名による応援団長を髣髴させ、或る時は大雷を落とされた事も、又、よく「先輩は我僕だ」と逆に言って互いに笑った事もありましたが、それ程、会の事で接触する機会が多く、熱心に今後の有り方に意見を求められる事も間々ありました。

昨年事に突然東大病院に入院され、1月5日に連絡を受け、早速病床へ伺ったのですが、暫に心配をかねぬ様と誠口命を布かれ、御本人に気疲れがあつてはとの両面より、不本意乍ら親しい人々にも連絡を差し控えましたが、呼ばれて伺うと終始会の運営に関する事で長時間話す事となり、呼ばれた時以外は却って行きづらくなり、早く回復して頂き、それからと、時々家の方に電話で病状を伺ふ有様。

4月8日朝、電話で計報を受け、動転し乍ら関係各位に連絡した次第です。御蔭で御遺体が帰宅された時、森繁兄の弔花が最先きに届けられて居りました。

告別式で令弟金三郎氏が「兄は会社の仕事以上に中学の同窓会の方に精力的だった」と、その通りだったと思います。御通夜・告別式と再度、同窓参加者によって六稜の校歌を涙と共に斉唱し、御冥福を祈りました。

今后共、六稜会並びに東京六稜会は私利私慾の場から離れた清々しい会として益々発展させる事が、高垣先輩はじめ物故諸先輩に対する何よりの手向と存じます。 合掌

千万の魂に届けや、我が思い

川瀬 勇 (39期)

我が孫が小学校の3年生になった。

今日も学校から帰るや、カバンを玄関にほり出して遠くへ遊びに行って、夕飯時だのにまだ帰ってこない。

私はフト思出した。

私も千万もの頃から、お互の家から遠い、「ここはお国を何百里、離れて遠き満洲の」の作者石黒辯護士郎に集って遊びほほけていた。

その千万と私が北野中学校で又、相学び相遊ぶことになった。そして私等は兄弟以上の友情に繋がれて人生の大半の旅路を歩き続けてきた。その刎頸の友が今は無い、私は悲しいとも淋しいとも名状すべからざる心境にある。

○

私等が北野に入った頃の野球部は強かった。その応援団長格が岡本一太郎氏、打者がフェールを打ち上げて、捕手がそれを捕らうと走ってくると、応援団は旗を打立て、そのフェールの落ちる所へ馳せ参る、ボールは旗と埃のまっただ中へ落ちて、捕手は立ちすくむという有様であった。

その次の応援団長が羽仁新一君、これが名高い落第坊主、北野開校以来の怪物の一人。

○

学校当局もこれではならぬと考えたらしい。統率力があって、学業も良く出来る(その前に谷口幸三君がいたが)真に学生らしい立派な団長を選ぼうということになって、友田野球部長に懇請せられたのが千万であった。彼は又、伊藤次郎君が創設した北野のラグビーの選手でもあった。時に私は野球部の主将を命じられていた。

○

私等の時代にも野球部は割合に強かった。負けもしたが、勝ちも多かった。

その負けた時には、千万は応援団員を集めてブった。

赤い赤い太陽が六甲山のかなたに沈み、ボブラの並木を赤く赤く染めた時に、我々は戦に敗れたが意気に於ては敵を圧倒した。

かく我々は千万を泣かしたのが、彼の情熱に燃やされて、明日を期したものであった。実に彼は名応援団長であった。

○

私等の中学生の頃は、日本は最も良き時代に恵れていた。

私等は実に愉快な青春時代を楽んだ。

ウドンは5銭、市電はいくら乗換えても6銭だった。

千万の中学校時代の半分は私の家で暮していた。というのは、千万が私等の先生であった。試験が始まると、千万は私等を教え、且つ又代理であった。

私等は昼は野球をして夜は眠いし、千万に教えて貰いつつも勉強が続かない、そこで勉強の代理を頼んで、お先に横になる、そして翌朝起きて試験のヤマを教えてもらって、登校をするという生活であった。

私等が野球をしつつ北野を卒業できたのは、全く彼のおかげであった。

○

実に千万は明晰な頭腦の持主であった。

彼の叔父には三番の社長の高垣勝次郎氏があり、実弟に、朝日新聞の常務をした高垣金三郎氏がある。

彼の一族は、顔の良い血統を有している。これが又、千万の特徴の一つをなしていた。

彼、千万は実によく人々に愛された。人ざわりも良く社交的にも勝れた素質を持っていた。

今の様に私等の青春時代は男女同学ではなく、男女七才にして席を同じくせずではないにしろ、しかしいつの世にも遠く近くは男女の仲。

彼千万は青春時代から後年に至る迄、よく女の子にもてはやされる一生を送った。これに就ては数々のエピソードを残しているが、プライバシーに属するので、ここには略して、我が心に秘めておくことにしよう。

○

中学校を出て、大阪商大を卒業してから一時病を得たが、突によく病を克服した。ここにも彼の非凡な一面を知ることができる。彼は偉大な人間性を有していた。

その頃から彼は薬に就ては素人ばなれをした知識を有するに至った。これが又、面白い話を提供するに至るのであるが、これも又カットをしておくことにしよう。

○

彼も私もそうであるが、我々の人生をかく送り得たのは北野中学校に負う所が大きい。

その当時は殊に先生も良かった、生徒も良かった。実によい中学校であった。

私等は北野中学に対して大いなる感謝の情を捧げずにはいられない。

この感謝を特に良く表明し、実行をしたのが、千万の母校愛の発揮であった。

彼は同窓会に対して、又東京の同窓会支部に対して絶大な努力を傾けて尽してくれた。誰も追いつき得ない力の発揮であった。

北野中学或は高校が百年祭を成功裡に催し得たのも彼の力による所が大きい。

○

今年の春早々になって、新井清氏から連絡があって、千万の病重きが故に早急に見舞に赴き元気づけるべしとの言葉が私に伝えられた。

私は4月の5日と6日に東大病院に彼を見舞って、7日に帰宅をした所、8日の朝8時50分に、千万の死の悲しいニュースが横浜から私に伝ってきた。

私は電話の前で泣けて泣けて我乍ら恥づかしい程に涙を流してしまつた。

そして又すぐに上京することになった。

しかし考えてみると、私は彼の人生で最後に会った友人となった。

実に私は大きな不思議を感じずにはいられない。

○

去る5月20日に、鶴見総持寺の高垣家のお墓に彼のお骨が納まった。これがいよいよお別れであったが、私は彼が奥津城深く納まっているとは思ひ難い。

今でも、私等や母校の上であつて、天上を飛びつづけていのように思えてならない。

○

私等の魂の中に、今でも紺の正服に白いゲートルをはいて、応援旗をふりつづけている彼の姿が彷彿として現れる。

純真な、そして情熱にあふれた人間であった。又その人生は真に青春の血をもって貫かれ、持ち前の頭脳の良さや、人の良さから、温情をもって人に接し、輝かしい人生を堂々と歩んだ。実にこの社会に於ても成功者の一人であった。

私は彼に対して賞讃と感謝と尊敬の念を捧げずにはいられない。

私もその中に彼にまみえて、地上で続いた60年の友情を、更に天上でも続けたいと深く冀っている。

あ、彼は良い人間であり友人であった。おしむに餘りある人間の一人であった。

第21回東京六稜会総会の報告 及び近況に就いて

東京六稜会常任幹事 大山利雄

高垣先輩に多くの依存をして運営されてきたのが、東京六稜会の実際の歴史である。4月8日に、先輩は他界され、亡くなる寸前まで六稜同窓会のことを気にされていたという。

ここ、数年、高垣さんのお手伝い役として、東京六稜会のお世話をした参ったが、高垣さんは、昨年(第20回)東京六稜会総会が大成功に終つたことを、本当に喜んでおられた。お氣持としては、一つの区切りをつけて、あとを若い世代にバトンタッチし度いと思われておつたようであつたが、昨年より玉置さんに新会長をお願いしたいきまつもあつて、なお、しばらくは、面倒をみてゆかねばと思ひ直されていた筈である。年末に、東京六稜会の幹事会が行われた際には、元氣なお姿で、東大の松島樓と仲よくコーヒーを飲みに行かれるのをみて、幹事一同、よろこんでいたものである。ところが、その直後、入院された結果になつたのであるが、病院に私がお見舞に参つたのが2月15日で、「今月末には退院するが、東京六稜会の準備を頼むヨ。もし、出席者が200名を割るようであつたら、問題だヨ」と、いつものように言つておられた。毎年、総会の直前になると出席者の返事を大変に気にされ、ご自分の読みと違つと、御自ら、年度幹事に、或いは、ご本人に電話され、出席を要請されたものである。そういうご努力を知っているだけに、今回、もし200人を割るとすれば、それは、そういう努力をしなかつたことの結果だと評価するヨと言われたものと、私は理解したのである。

総会は、6月2日、恒例の日本工業倶楽部で行われた。お蔭様で250名近くの出席者があり、幹事としての責任は、ひとまず果たされたことになつた。6月2日の日取りは、既に昨年の総会の折に、高垣さんが工業倶楽部と取り極めておられた。これは、岡島先生の個展を東京で開くので、総会場で全員の諸氏に大いに個展のPRをすること等、高垣さんの岡島先生に対する温いお氣持があつて、そういう段取りになつたのである。

それというのも、昨年六稜会20回記念総会の時に、総会20回奮闘賞として、岡島先生の絵を贈呈する計画をたて、その旨、先生にご相談されたところ、心よく先生はその企画をうけて下され、刺つさえ、油絵2点を、会にご寄贈下さつた。その先生のご好意に、おむくいすべく尽力されたのが、高垣さんのお氣持であつた訳である。

総会は玉置会長のご挨拶、高垣さんのこれまでの御苦労に更めて謝意を述べられ、ご冥福を祈られたあと、母校代表の佐々木教頭、六稜同窓会の丸野常任理事の夫々のご挨拶があつた。丸野常任理事のご挨拶には、高垣さんを偲ばしめる涙をさそうものがあつた。

今回の講演には、57期の日本マクドナルド社長 藤田氏をお願いし、況とほどこの國のお話、という題で約25分のごお話を拝聴した。

出欠の返事のなかに、今回の(講演の)企画よしという声があり、相当あり、多くの会員から期待された講演であつたが、終つてやはり、よかつたという声が多く、藤田氏に更めて、謝意を申し述べます。

懇親会は、いつもの如く、朝日ビール(第58期中小路茂次同社常務)の御厚配をうけて、ふんだんに用意されたビール、その他模擬店のたべもの。腹の方には、ことか、なかつた筈。

大阪から岡田喜雄氏が突然ご出席下さり、応援団の三三七拍手。或いは、大仲先輩の独唱。更に、野球部、ラグビー部の先輩の近況報告等の飛入りがあつたのが、いつもと違つたことでした。

新人紹介後、校歌を合唱して、閉会したのは8時半。外務省の山崎官房長も、ご多忙の中を、出席しておいででしたが、年一回の六稜の同窓会が終って、とくに高垣さん亡き第一回の総会ということで、幹事一同、終ってホッとしたというのが本当でありましょう。

総会の出欠の返信が、ソ連やアムステルダムから、はるばる回送されて届いたのも、嬉しく思いました。同窓会の裏役として、総会通知の発送、出欠の整理等をやっておりますと、ご返事のなかに、なにか、ひとこと、書かれておられるのを拝読することに、楽しみをおぼえます。また逆に、昨年までお元気で、総会にご出席になり或いはご返信を賜わっていた方の御家族から、永久に欠席するというご返信を頂くと、寂しくなります。

本年の総会の出欠のご返信のなかで、お亡くなりになられた方のご氏名の判明した分を次に記して、ご冥福をお祈り致します。

14期 明34年卒 岸本隆氏
51. 11. 25ご逝去

20期 明40年卒 安川豊三氏
51. 夏
23期 明43年卒 大山広貞氏
53. 3. 19
32期 大8年卒 大前敏一氏
53. 3. 30
38期 大14年卒 鈴木才藏氏
52. 11
48期 昭10年卒 山本 正氏
52. 6. 20
52期 昭14年卒 武内峯雄氏
53. 6. 8

東京六稜会事務局

〒154 東京都世田谷区若林3-6-18
大山利雄 気付
電話 03-421-0693
職場の電話 03-356-4087
野村コンピュータシステム(株)
常務取締役 大山

○東京に在住の同窓の方で、登録未了の方は上記にご連絡下さい。

○54年度の東京六稜会は 54年6月8日(金)午後6時、於日本工業倶楽部の予定です。

六稜ラグビー大阪府高校OB
大会に6年連続優勝!!

昨年も、六稜会報No.10に報告しました大阪府高校OBラグビー大会第一部(満40才以上)が、今年も大阪ラグビー協会主催で、2月から3月にかけて万博球技場及び花園ラグビー場で開催され、我が六稜ラグビーは、今年もこれに参加しました。

昨年までは、破竹の勢いで5連勝を続けたのでありますが、今年是他チームの若手(?)補強が著るしく、その上打倒六稜の意欲が目立ち、連勝を続ける事は困難かと思われました。

然しながら大会が始まると、六稜ラグビーは劉善夫先輩(55期)を先頭に、名和成介主将(57期)を中心として、チームワークが抜群で、35-10京阪商OB 10-6 淀川工OB 20-4 四条囃OBと連破して、輝かしき6年連続の優勝を果たしました。

優勝の夜、みなみのとり菊で祝勝会を開いた席上、「6年も優勝を続けたのだから、若手(?)を補強して、8年でも10年でも連続優勝を延ばそうではないか」との景気の良い話になりました。ちなみに、本大会出場六稜ラグビー選手の平均年齢は46.6才であります。猶、第二部(若手OB)は、残念ながら3回戦で敗退しました。

最後になりましたが、わが会員下平嘉昭氏(61期)令息憲義君(北野高本年卒 ラグビー部主将)が昨年夏、高校全日本軍のセンターとしてオーストラリア遠征に参加し、大活躍した事を御報告します。

昭和53年3月31日
比山實二(63期) 記



六稜文庫

(昭和52年5月以降)

S 3卒(41期)	北村 学	西山推唱全歌	1	98	52.12.24
T 14卒(38期)	吉田信武	雑 感	1	99	52.12.24
T 10卒(33期)	高橋貞郎他	六稜三四会回想録	1	100	52.10.6
S 5卒(43期)	斎藤定男他	六稜昭五会会報第四号	1	101	53.5.13
		六稜昭五会会報第二号	1	102	53.6.5
		六稜昭五会会報第三号	1	103	53.6.5
S 26卒(63期)	國米 惇	技術畑の天機碑	1	104	53.6.5 (52.9到着)
S 22卒(60期)	三島佑一	死灰また燃ゆ—青春多悔	1	105	53.7.31
S 26卒(63期)	木船佛嗣	「REPORTS OF FUKUOKA UNIVERSITY SCIENTIFIC EXPEDITION TO PERU, 1976」			

(注) 氏名は寄贈者名です。

猶、他にも卒業生より図書館あてに寄贈された本が同数以上ありましたが、「六稜文庫」宛になっているもののみ掲載しております。又「六稜文庫」は別個保管しております。

ビル、工場、学校等総合管理

保安警備、設備一切、清掃、受付、その他

従業員400人

光栄美装設備株式会社

代表取締役 森 下 恭 助 (46回生)

本 社 京都市伏見区深草西浦町5-42 TEL 075-641-4661(代)
大阪営業所 寝屋川市董島東1丁目17-3 TEL 0720-24-1952

新聞にのらなかった センバツの話

清水 治一 (57期)

昨秋の毎日新聞にセンバツ50年の特集が載せられ、昭和24年の優勝当時の記事も出ていたが、何か、私ひとりが増したような感を抱かせるものがある、甚だ私としては不満であった。

全国制覇なんて、そんな単純なものではないことは諸氏もご承知と思うが、もし、私が監督をしていたことでお役に立たたと云うなら、それには次のような原因があるのだ。

その一は、私が監督を引受けようとした決めた動機である。

私の北野時代は、世は戦時色に包まれ、プロ野球は「日本野球」と称し、審判はストライクを「よーし一本」と呼ばねばならぬ時代であり、全国大会は中止、学校では敵国のスポーツである野球部は廃止されるか、有名無実の状態におかれる憂目にあっていた。

この「幻の甲子園」時代に卒業した私が、後輩を導くことによって思う存分白球を追う望みを実現したいと思ったこと、その当時、先生の中には「野球なんても……」という白い眼があったに拘らず、「野球部はつぶれていないのだから、野球をやれやれ」と勵まして野球をやらせてくれた鈴木清一郎先生が部長として健在だという報告を聞いたからである。戦争から還つてまもなくの私が軍服に軍靴でいまの後援会長、当時の投手鈴木と主将の林の求めに応じてグラウンドに一步を入る起因はそこにある。そこには吉川、土井、藤田、増田、田中らの荒れたグラウンドをならす姿があった。

次に、私が監督として成功したとすれば、そのバックボーンとして私を育てた人がある筈だ。

それが、いまも東京から度々足を運んで下さる長老の大谷先生であり、大先輩の林政雄さんである。

大谷先生は生徒時代の恩師であり野球部監督。この先生に「成績が悪いからしばらく休んで勉強してはいませんか？」と訊いたら、「そうか、そんなら落第すりゃいい」と云われた記憶がある。野球をしたから勉強ができないということはあり得ない、という私の信念の基はここで生れたのである。

林先輩は現役時代も度々お世話になったし、それよりも戦後、若年監督の私の監督として、一方ならぬ力を注いで頂いた。野球歴の浅い私に野球を教えてくれたのはこの人である。この両先輩の北野にかけた情熱、これが私の中に滲みこんでいる。

私が優勝監督というラッキーな立場におかれた原因の中に、このお二人を忘れることは出来ないのである。

第三の原因は、前年度の選手が、私をよく補佐してくれたことである。優勝する前年の夏、予選の決勝で天王寺に2-1で敗れたその口惜しさをじっと腹に下した水谷らの学年が、入試準備の時間をさいて必死に腹生を鍛えた。この功績を見逃すことはできないだろう。

第四の原因は、私が思った通りに選手を動かすことが出来たこと。うらがえせば、監督の気持を飲み取ることの早い、優秀な選手がそろっていた……と云える。

弱いチームは監督が選手の気持を察してやらねばならない。強いチームほど、選手が監督を察する力があるのだ。

優勝当時の選手たちは、私がサインを出すまえにそれを予知していた。練習でも、私が叱る前に、叱る必要のない行動をとっていた。新聞には、わずかの人名しか載らなかったが、主将梅田以下、全員が優秀であったから優勝できたのだ。

多湖は器用な素質のある選手で投打に活躍したが、それも山本というリリーフがいてはじめて効果が増大したのであり現実に9回裏に山本がいなかったら逆転敗けで終つたろう。

そして、この球質の異なる2人を巧みにリードして要めの位置を守った広瀬がいなかったらどうなったかわからない。スタンドを埋める観衆のド真中で、ホームにすわりこんで靴下の砂を払ったあの度胸が8人を落着かせ、そして彼は12回決勝点を叩き出している。その決勝点のランナーが、また失策6という未踏のワーストレコードを持つ市村である。6個目のエラーの後、半ばベソをかいていた彼が先頭打者として四球を選んだこと。失敗したら、つぎにそれを補う力を出しているということ。この人間の強さも功績のひとつである。また、品川はエラーのない試合はないと云われたが、ピンチには絶対エラーをしなかったし、市石は、どんな難球でも追いついたらすぐに一塁ヘストライクを投げた。慶留間は2点目を叩き出した。など、数々の名プレーが生れ、あの長谷川の有名なプレーは生れるべくして生れたと云うことができるのである。

その他、当時の甲子園の課長であった野本先輩をはじめ、多くの先輩に物心両面でご配慮応援をして頂いたことが大きな支えになっている。まだまだ、数えればキリがないが、北野の優勝の話が出る度に、「私のことだけ云ってくれるな」と云いたくなる気持が少しはお解り頂けたかと思う。

私に対して賞辞を頂けるなら、むしろ、優勝の次の年に、「主将ひとり優勝旗返還」という淋しい光景をつくらなかったことに対して「よくやった」と云ってほしいのである。

その後、北野は弱くなった……と云われる。しかし、その伝統はじっくりと伝わっている。OBでもない森先輩の野球部への愛着、野球部出身でない西田先生の名監督ぶり、そして野球部長の精神が、現在の岡田先生、つづいて口村先生と引継がれているのだ。

大谷・林両先輩の後輩に対する愛は、水谷時代と同様いまの畑見・三森・竹村のコーチぶりになって現われている。それらの伝統がこの狭いグラウンドで、野球部が毅然と存在している原因を形作っているのだろう。

年々歳々花は咲き変わる。が、その幹や根は変らず敷として存在し、年ごとに変わる花の中に賑々として活を与えている。哀しいかな、人は花を眺めて、その根幹を見つめようとはしない。それがマスコミ時代の様相である。

せめて六楼のOB諸氏だけでも、この一文を読まれることにより「伝統の大樹」を育てた人、育てようとしている人に寄せる心を持って頂ければ幸である。その心こそが、私に「ノックバットを持って死のう」という情熱をかき立てさせてくれるのである。

常駐・保安・機械警備……従業員1,700人

朝日警備株式会社

取締役会長 本郷康基 (51回生)

本社 大阪市都島区片町2-2-40大発ビル

TEL 353-2461 (代)

支社・営業所 東京・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

北野戦後史

題字 泉 徳二校長

—連載第1回—

戦後教育改革の あれこれ

瀧田 城政



はじめに

昭和47年に母校北野高等学校において、北野百周年の記念式典が盛大に行われた。歴史をさかのぼると、本校は明治16年に府立大阪中学校として、当時の師範学校より分離創設されたのであるが、その前身ともいえるべき学校が更に10年さかのぼって明治6年難波御堂内に開設されており、これが欧学校（集成学校）と称されたものである。その後いくたびか校名は改められ、所在地も変って、府立北野中学校という校名になったのは明治35年、現在の所在地に校舎が建設されたのは昭和6年であった。そして北野高等学校となったのは昭和23年である。

このように明治大正昭和を通じての百年の教育の伝統をうけつぎ、移り変わる姿をみるにつけ感慨深いものがあるが、北野高等学校となってからでも早くも30年を経過している。したがって六校同窓会の会員も次第に若い人が多くなって高等学校の卒業生が多数をしめるようになったことは言うまでもない。そういう次第からであろうか、六校同窓会常任理事の山本君から私に対して、終戦後の教育改革や北野高等学校発足の頃の思い出などを書いてほしいということになった。

連合国軍の日本進駐

今年には終戦の33周年である。終戦直後のことを思うと、わが国の社会生活の窮乏と混乱と虚脱の状態がまずうかび出てくるが、これに更に重圧感を加えたのが占領軍の進駐であった。連合国軍の日本進駐は8月末に開始され、10月には最高司令官総司令部が設置され強力な占領政策の実施がはじまるのであるが、これによってわが国の政治経済文化および社会生活の全般にわたって大変革がもたらされたことは言うまでもない。しかしその中においても、心ある人びとによって国政のいろいろな分野において深い反省と改革の論議が展開されるようになった。改革の根本理念は民主主義、平和主義であることはもちろんであるが、教育の改革を重視する考は一般の国民の間においても非常につよいものがあつた。マクアーサー総司令部は教育の改革とくに重点をおき、占領政策開始後間もなく「日本教育制度に関する管理政策」（昭和20年10月22日覚書）をはじめつぎつぎに4つの指令を発している。これは軍国主義及び極端な国家主義の排除という原則のもとにピシピシと手をうってきたもので、国家神道の特権の禁止や修身、日本歴史及び地理の授業停止におよぶものであつた。

昭和21年3月には、第一次米国教育使節団が来日し1ヶ月にわたってわが国の教育事情を調査した結果、報告書が作成、公表された。これは総司令部の日本教育改革の根本方針となつたものである。その年の8月には、これに対応するものとして内閣に教育刷新委員会が設けられ、こゝでわが国教育の根本的改革が自主的に審議されることになった。このような

経過をたどって昭和22年3月まず「教育基本法」が制定され、つづいて学校教育法、教育委員会法、教育公務員特例法、文部省設置法、社会教育法、私立学校法などの重要法律があいついで制定され、数年を出ないうちにわが国の新しい教育体系の骨組みができた。

精神的無政府状態の下で

これらの法律のうちで最も重要なものはいうまでもなく教育基本法であつて、明治以降の国家主義的ないし高国強兵本位の教育がきびしく反省されて、個人の価値と尊厳に対する認識を基盤とする新しい教育理念が、ここに宣言されたわけである。この教育基本法が、わが国教育において長い間權威をもち、その精神的支柱であつた教育勅語に代わるものとして制定された経過は人の知るところであろう。私は今ここで基本法の条文などにふれる余裕はないが、当時一般の人びと、とくに学校の先生たちの間において、この戦後教育改革の新しい理念がどのように受けとめられたかを問題にしたいのである。終戦後の思想的政治的危機というべき状態において、あるいは方向を異にする世界観、道徳観、またはイデオロギーが鋭く対立し精神的無政府状態が生じ、そのうちにあつて従前の教育観は封建的ないし国家主義的なものとして拒否され葬りさらされ、しかもこれに代わるべき新しい理念の意義を教育者が十分に把握するにいたらず、虚脱のうちをさまよつて、このような状況がなかつたであろうか。

教育の目的をどのようにとらえるかを問題にするならば、教育者が自ら古今東西の倫理、哲学、宗教について学び、望ましい人間形成の在り方を探求し、自己の識見において教育的努力の目標を確立するのぞければ、自信と情熱のあふれる教育活動はあらわれてこないであろう。教育者が教育の目的を見失ってしまうことは、自己を見失うことであり、自己喪失である。

六三三四制への改革

次に六三三四制が戦後教育改革における学校制度の根本的路線であることは言うまでもない。それはこれまでの複線的な構成であつた学校体系を教育の機会均等の理念に基いて、単線型にあらためるとともに義務教育の年限を3ヶ年延長するという画期的な改革であつた。したがって改革の重点は中等教育の段階にあつた。従来は中学校高等女学校の系列に進むか、実業学校の系列に進むか、あるいは高等小学校に入るかなければならなかつた。そして更に高等教育を受けることのできるの、事実上中学校高等女学校のコースを進むものに限られていたと言つても過言ではないのであつた。このような複線的な学校系列を改めて単線型にしたわけである。ここに新制の中学校及び高等学校が設置され、高等学校を卒業するものはひとしく、4年制を原則とする大学に進学することとなり、大学の増設と拡充が推進された。

さて昭和23年4月に新制高等学校が発足した。先にもふれたように従前の複線的中等教育体系から単線型への切替えに

写真 貴方のおうちの歴史を つくって見ませんか？

皆様のお蔭をもちまして開業以来順調に
発展致しております。感謝

箕面市箕面5-12-9
0727 (22) 1577

7オクセン

際して、新制の高等学校はこれまでの中等学校とは異なった構えが要求された。即ち新制高等学校は学区制をとり、男女共学制をとり、またそのカリキュラムに関していわゆる総合制を考慮するなどのことが必要になってきたわけである。ところで全国の府県の教育部局がこのような諸問題と取組んでいる段階において、占領軍の地方軍政部が強力な指導を加えてきた。それは全国一様ではなかった。とくに東海北陸及び近畿の各府県において、その指導の姿勢は強かったように思う。もちろん問題の内容や指導の強さの程度は各府県によってさまざまであったが、何分新制高校の学区制、学校統合、男女共学などに関連してくるので、軍政部当局の強い指導方針に対し生徒父兄教師等の意見が対立し、場合によってはげしく抵抗することもある。府県の教育部が非常に苦勞したこともあったようである。

ストライキ直後の北中に着任

次に、このような問題が大阪ではどうであったか、いくらかのべておきたいのであるが、ここで私自身のことを少しのべさせて置きたい。私は昭和21年1月に府立北野中学校長に任命された。旧制府立北野中学校の最後の校長であった。私の前任者は戦時中における指導がきつめて軍国主義的であったということで終戦後主として卒業生から強い排撃をうけ、ついに転任するに至った。終戦直後の窮乏と混乱の時代ではあったけれども、私は明朗活潑たる生徒諸君の旺盛な向学心に支えられて愉快に勤務することができた。私にとっては思出多き北中時代であったが、僅か2ヶ年にして、また府立の教育部へ来いという話をきかされた。私は固辞した。しかし、そのうちに府教育部の学務課長が軍政部との問題でその職を去らなくてはならないことになっているらしい、という話を耳にした。私は、また何をか言わんやと思った。そして23年2月の末、私は大阪府学務課長に任命された。早速その4月から発足すべき新制高校の諸問題と取組まなくてはならなかった。大阪地方軍政部との連絡という仕事が、私の重要な任務の一つになったことは言うまでもない。

ジョンソン旋風に抗して

しかし大阪府の場合、私が学務課長になってからは軍政部との間にとくに大きなトラブルはなかった。当時の大阪軍政部の教育担当官ジョンソン氏はなかなか強い性格の人のように見受けられ、ジョンソン旋風などということばもあったほどであるが、私がつきあったところではこちらがイエス・ノーをはっきりして、のべるべき理由を明確にすれば大抵のことは納得してくれたように思った。以下、当時の新制高校の諸問題を要約して記しておきたい。

まず学区制のことであるが、私は一学区一学校というような学区制は、大阪の中等学校の配置状況と府立、市立の併存しているなどの事情から、その実施はきわめて困難であって、大阪市内五学区、府下七学区程度の中間的な学区制になることを当初から明確にした。この状況は30年を経た今日でも変

っていないようである。次に実業関係の学校について、単線型を強く押出そうとすれば、実業系の専門教育を主とする学科と普通科をあわせもつ高校の編成も考えられるわけであるが、私は大阪において立派な伝統のもとに堅実な校風を発展させてきた府立の工業学校などを、それぞれ独立の新制高校とするよう強く推進した。

男女共学の発足

男女共学については、大阪府の教育部は軍政部の強い指導もあって私が学務課長として着任した頃には、大体実施の方向にかたまっていた。私自身も、わが国将来の民主的社会的発展を思うならば、いたずらにためらうことなく共学の実施にふみきるべきではないか、しかし実施に進む以上必ず成功させなければいけない、大多数の府民の支持を得られるものでなければならぬと考えていた。そこで昭和23年4月新制高校発足に際して、その新1年生から共学制に入ることにした。それには、まず隣接する旧制の中学校と高等女学校を1校づつ組合せ、その旧制の3年生がそれぞれ新制高校の新1年に進級するわけであるが、その場合に半数を交換する形で相手校に進学させ両校の新1年は男女がおよそ同数となるようにしたのである。北野と大手前の新1年が半数づつ入れ替ったのであって、当時学校関係者の間ではこれを男女の交流と称した。このように新1年生からにしたのは、共学が学校教育の全般にわたり検討するべき問題であり、職員組織や施設設備についても周到な考慮を必要とし、やはり数年の漸進的措置を以て実行するべきであったからである。したがって生徒の交流と同時に関係学校間における教職員の配置転換も思いきって実施された。また、とくに旧制高等女学校について、その運動場を拡張し野球ぐらいはやれるようにしなければならないという指摘もあって、大阪市内の各学校の運動場の整備には相当の努力がはらわれたと記憶する。

あわや十三高校に

そうして新制高校への切替の仕事が一段落した5月ごろ、私は軍政部から一つの勸告をうけた。それは府立の新制高等学校の名前を全部変えてしまえということであった。ジョンソン氏のことはおたやかではあったが、私の胸にはグツくるものがあつた。理由をたづねると、それぞれの学校の好ましくない伝統を一掃するためには、古い名前を変える方がよいと言うのである。「戦争に散って焼野原になった大阪で、今、青年たちの魂のよりどころは何であると思うか。母校あるのみである。あなたはその母校を青年たちからうばいとうとするのか」私はそう言って座を立ってしまった。そしてこの話はそれきりであった。北野は今も北野である。(終)

はまだしげまさ先生略歴

昭和21年から23年までの本学校長。明治36年茨城県の出身。一高、東大哲学科卒。大阪府教育長等を歴任。

(見出し文責 編集部)

郷愁の味 伝統の味 自然の味

浪花の名物「夕霧そば」

「夕霧そば」は、昭和29年11月25日大阪府麺類組合連合会新調理品展示会に、始めて柚子切そばを夕霧そばとなづけて出品、斯界の絶讃裡に最高優位賞を獲得したものです。

手づくりの味献上そば

大阪市北区曽根崎上2丁目16番地
梅田新道お初天神東へ入る

☎(06)311-5041
313-4045

IGS 夕霧そば 瓢亭

回想

題字 阿部隆一先生

あの頃の北野

—戦後の混乱期—

徳永行平(63期 会社社長)

あの頃の北野を書けといわれて机に向うと、さすがに6年、ムダに通ったようでもいろんなことが頭に浮ぶ。しかしどういうものか、私にはあまりよい記憶がでてこない。

世の中が変りすぎたとはいうものの、イヤミのひとつも言いたくなるほどいろいろの実験のモルモットになった。だから〈あの頃〉を書こうと思えば、ちょっとヒガミツボク、ハスにかまえて書かないと似合わない。

だいたいはじめがわるかった。北野の長い歴史でも多分稀有の例だろうが無試験で入学させてもらった。焼野原の大阪が試験などという悠長なことを許さなかったせいであって、別にこちらが頼んだわけではないのだが、それでも何かといえれば〈できのわるい無試験組〉がいつも問題児にされた(そういえばたしかにわるいヤツが多かった)。

そこでヤキを入れてやれというわけでもなからうが、炎天のもと朝から何時間も“気をつけ”をさせられて、バタバタ倒れるヤツは気合いの足らん腰抜けだからそのまま捨ておかれた。それがすめば毎日、来る日も来る日も運動場を廻りかえしてタコ壺防空壕とイモ畑をつくった。アメとムチというわけか、たまにパンの配給があった。ふたつに高るときれいに糸をひいた。口にもってゆけばスッパイ味がした。

それでもたまには英語の授業があった。テキストのはじまりは“This is a pen”ではなくて“He is a soldier”で、これに兵隊の絵がついていた。おかげで今でもこのスベルだけはすぐ口をつけて出てくる。

やがて、戦争がおわった。

教練の代りにいよいよ本格的なイモづくりがはじまった。こわい上級生に監督されながら、徹夜でいやいやイモ泥棒の番もした。それでも秋になるとイモができた。しかし焼跡に残った瓦のために形がかわってイビツにまがったのが多かった。イモは、つくった人の人柄に似るものなのだ。

中学3年になってそろそろ勉強がすすみはじめた。そこへ、よせばよいのによつて汚したように新制高校という言葉が生れた。

またまた無試験で高校にあげてやるといわれ、一挙にリラックスした。なおその上に、もっとリラックスさせてやろうという親心で珍しい女の子までがドット女学校から送りこまれてきた。オレたちは何とツイているのだろう。男と女と半数づつにして、ひとツガイにするソウヤア、という噂もあったが、幸か不幸かそれほどでもなかった。

小学校の頃からついこのあいだまで、男と女はあまり気安くなれ親しむべきでないと教えられてきたのに、今度はどんな顔をして進駐軍ご推奨の〈男女交際〉をすればよいのか。人目を盗んでの軟派のマネゴトはスリルがあつてちよつとしたものだが、オーソライズされるとこれは相当勝負がちがった。

更に教科書は一年前に逆戻りして、同じことをもういっぺん習うはめになった。若い女の先生にわざと金切声をあげさせ怒らせるのは、おもしろくも新鮮なみものだった。勉強は楽だし、周りはおろか教壇にまで見なれない花が咲き乱れた。時あたかも生意気なさかりである、誰が一体勉強などするものか。それぞれ自分の好きなことに血道をあげた。わるいヤツは一層わるくなった。おかげで、いい意味にも悪い意味にも個性的な男ができた。甲子園の野球で優勝したのも多分そのせいではないか。はからずもすばらしい教育効果があつたというべきであろう。

野球が優勝したとき、たまたま私は自治会会長をしていた。一年の三学期だった。一年生のくせに会長になったのは記録的だといいたところだが、実はその頃中三を併設していたので、上級生の悪口をいえば半分は票が入った。講堂へ野球のチームが組だか赤だかの旗をもって入ってくるのを最上級の形容詞でほめたたえた。しかし内心では、これは困ったことになった、まちがってこんなマリ投げに勝ったばかりにこれから体操の教師が巾をきかし、淀川大橋まですんだ断郊競走も長柄橋まで走らされるだろう。途中でプッ倒れたヤツは、また数年前のように気合いが足らんといわれるにちがいない。更には学校は保守反動にこりかたまつて(逆コース)を辿るであろう、と大まじめに心配した。昭和23~4年の頃である。当時はちょうどそういう世の中だった。自治会の規約が北野高校自治会であつて生徒自治会ではないのはケシカラン、しかも自治会がいくら結論を出しても校長がそれをひっくり返す決定権をもっているのは封建的かつ軍国主義的ではないか、というような議論を目の色をかえて延々と続ける連中もいた。学生運動はなやかなりし浪

高から、新制高校自治会連合をつくって連帯して大学設置法案に反対するので、それには北野がリーダーにならないで誰がやるのだ、とそそのかされて石橋へ通ったのもこの頃だった。今ここに黄ばんだ一冊の本がある。その頃級友とはかつて出したクラス雑誌だが、その大部分が舌をかみそうに硬く、気恥しくなるほど青くさい表現で、聞きかじりまで飽きず議論していた。ことばが激しければ激しいほどカッコよかった(これは今もあまり変らないか)。

社会科学研究会や演劇部やらのグループがあつて更にこの傾向がいちじるしく、連日(理論と実践の弁証法的統一)から〈社会主義的ソリアリズム〉に至るまで飽きず議論していた。ときにコロンタイの恋愛論などという大それたことを教えてくれるヤツがいて、そうすると社会主義になればつまりフリーセックスになるんヤナ、と思つて胸をさきめかせた。後に現役で東大の文系へ3人入つたが、3人ともかかるいかわしいグループで、阿呆のひとつ覚えみたいに面倒なコリクツをこねていた。おして時代の背景を知ることができる(つまり入学試験がやさしかったのだ)。

こういうカワイ気のない、生意気さばかりがススんだ連中のいる反面、休み時間に屋上へあがれば、ヨリ人間的に生々しい問題に悩む気のやさしい小羊たちが、タバコをまわしのみしながら昨夜の心おどる体験をひめやかに、あるいは誇らしげに語っていた。こういうまことにうらやましくもススんだ連中のおかげで、17~8才にして早くも人の世の楽しさと危しさをふたつながらに教えられた。

あの頃、まるで禁断の実をすすめるように私にタバコを教えてくれたあの仲間は今どうしているのだろう。思えばわがアルトハイデルベルヒは今やはるかに速く、そしてしきりに横し。書きつづけ、思いがつのって横しさに胸が痛む。私が今あるはひとえにカワイ気のない生意気な仲間と、生々しい体験に悩む気のやさしい仲間の賜物だし、いまはにそのあいだをさまよっている。

はじめに〈私にはよい記憶がない〉といったがこれはいさぎよく撤回します。(できのわるい無試験組)の個性ゆたかな仲間と寛容な先生方のおかげで、私は多様で、しかも貴重な経験や教を受けました。そういう意味では〈あの頃の北野〉は、キザな言い方ですが、何ものにも代え難い私の青春そのものだったといわなければなりません。

(53. 7. 29)

六稜同窓会だより

六稜昭三会(四一期)

卒業50年組が同窓法要開く

旧制中学を卒業して50年、半世紀の間に亡くなった級友たちをしのぼうと、昭和3年に北野中学を卒業した「六稜昭三会」のメンバーが20日、北区太融寺で珍しい「同窓法要」を開いた。

卒業当時 220人いた同窓生は戦前、戦後の激動期が働き盛りとぶつかって、確認されているだけで73人が物故者となり、いま消息のとれているのは70人前後。

物故者の中には、海軍中尉として昭和12年に初の大陸渡洋爆撃に出撃して播らぬ人となった川口茂彦さんや戦犯として処刑された岡部善修さんから戦争の犠牲者も含まれている。

同会世話人の新井清大阪学院大学学生部長らが「50年を記念して亡き友の霊を慰めよう」と呼びかけ、この日は36人の同窓生や恩師3人、遺族13人が出席。黒田知事もメンバーだが、所用のため手向けの花を供えた。

(読売新聞 53.5.21より転載)

六稜四五会報告

北野中学卒業以来45年、お互いに還暦を過ぎると旧友との昔話に花が咲くもので、昨52年総会にて広瀬君よりお互いに近況を語り思い出を綴る、45周年記念誌作成の提案有り、出版委員各位の努力により、現北野高校泉校長ならびに広田、水島、細川、平田諸先生の玉稿も入り、会員諸兄の原稿も133名に及び本年3月編集完了、発刊することになりました。

昭和53年度、四五会総会は里田君幹事となり同君施政の地松江に於て、5月13・14日開催、出雲大社参詣、水の都ヘルンが愛した土地、宍道湖の柔らかな湖面をながめ夜ふけまで飲み、語り明かし楽しく同窓会を開くことが出来ました。

六稜四七期総会

4月2日(日)花薫る甲東園駅前椿若にて総会を開催した。集合者50余名、恩師5名も参加され、打積の話は尽きず午後6時再会を約して解散した。



昭和52年度六稜四八会総会

恒例により毎年11月3日、母校総会に引き続く六稜四八会(昭和10年卒)を40周年の植樹前に午後4時集合。貸切バスにて、級友橋本卓三君経営の大阪ファミリー会館に直行。遠く四国の高知より井上章夫君、大分より南広司君と還々参加された級友に又40年振りに年月の経つのを忘れさせる許り。企画に半年前から恩師の御出席方依頼する等他年度からの幹事も四八会の買占めに参った様子ですが年々恩師の御元気を姿を見るにつけ還暦を過ぎた級友を年に一度呼び出せるのは嬉しい事です。懐旧談に花を咲かしつつ、終りに中村典美君の三七七拍子の応援歌と校歌を斉唱し午後8時散会。特に六稜四八会の為に御出席賜った老先生方保田、平田、植村、梅垣、大谷各恩師も益々御元気で来年もお招きしたいと思っております。(幹事 住島記)

六稜伍仁会

白壁の殿堂ゆらぐ

健児の大合唱!!

(本町発) 52期のつどい伍仁会(ゴニカイ)では11月19日夕5時から、堺筋本町の帝人ビル17階ホールで全国大会を開いた。

恩師五方を始め、集うもの総勢60名を越え、昨年を上回る大盛会の中に、9時すぎ、名残りを惜しみつつ解散。

閉会に先立ち一同記念撮影ののち、田中(仁)君の司会で始まり、津田(善)、堀口、森岡、初岡各君の冥福をいのって黙祷をささげた。ついでご臨席の保

田、植村、岡島、三橋の諸先生方を代表して、村上正巳先生が登壇、賑爽として、ご挨拶を頂いた。

3年をとると人に会うことが楽しい。友あり遠方より来たるとは、孔子が老いたるものの為に曰いし言かと思う。

諸子出藍の誇れ高く大成の姿を見、喜びこれにすぐるはない。我らすでにすべて古橋を超え、我まさに77才。日夕40分の散策を怠らず、依て脚の弱化を防ぎあり。けだし、老いの到るや、まず脚を鍛うべければ也。

今宵は大いに健啖し、廉頗の如く楽しみたい。諸子亦、大いに呑み且つ談笑旺んらんことを。

乾杯の音頭は級長駒田君、盃をあげて諸先生方のご長寿を祈り、我ら亦あやからんことを希って、セレモニーは終わった。

かくて時価1万2千円ぐらいのパーティ会食が帝人ビル社長の高橋(達)君のサービスで6千円のディスカウント料理に、一同歓談をつづけた。シャンデリアきらめく大ホールの下、ワルツならぬ校歌や応援歌が流れ、紅顔変じて厚顔となった一同も、口をひらき、酔の助けをかりれば、38年は瞬時に戻り、一切の肩書も「なんや、おまえか、でっちゃん」。

ゴルフの効用を説くものあり、倒産企業の救済を説くものあり、長夜も漸く更けんとするころ、突如おどり出た戸唄君。

五方の恩師のお名前をおりこみ、色紙に献寿の歌を題書したものを次々と披露し、先生方に贈呈した。記憶をたどり一例を挙げれば、保田先生に捧げたものは次のようであった。

やく品と
すごし歳月
だい満足
茂る、翠に
二羽の鶴。

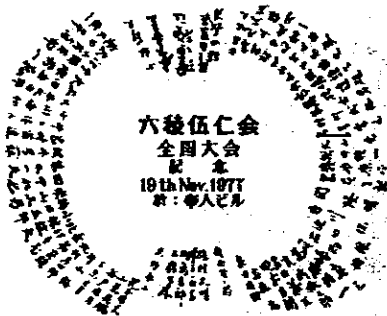
なお彼に若干の黄白と時間を差し出せば、会員用によるこんで作詞することである。

ついで沢田君が大きな紙芝居を用意してきて、北中一年から五年までのまんが思い出シリーズを演じ、一同爆笑したりシンミリしたり。

仁也君が校歌の音頭を田村君にという。元音楽部でホルンを吹き、今東大で印哲を購ずる彼も、得たりと、朗々六稜の星の印を、と始めた。但し大学教授は唱うだけでは気がすまない。

みなさん。今日大成された戸咲・津田両君を見るにつけ、若き日、母校の硬軟の両雄であったことを思うに、母校のレベルの高さを痛感するのであります。

万才三唱は秀才永易君の音頭であった。最後に高橋社長のビルPRの一幕があって、恩師をお見送りしたあと、一同は三三五伍、北に南に消えていった。いや、高砂君の率いるグループは17名であった。おや、みおつくしの鐘が鳴っている。(沢田記)



三三七拍子

井上昭良君

六稜六二会レクイエム 戦禍に倒れし友俤び……

六稜六二会の昭和53年度総会は、6月3日(土)午後5時から、曾根崎の本むさし会館8階グランドホールで開催。

今回は、終戦後の混乱期から復興期にかけて2年間、校長として在任された浜田成政先生をはじめ、水島喜平、小林二郎、三木正美、上阪喜代治、平石亮三、金森佐太郎、佐賀真一の諸先生方のご出席を賜わった。同期生も85名が出席して、昨年と同様の大盛況。

今年は、あの昭和20年6月15日の空襲で、母校防衛の最中に、池田彰宏、中島要昌の両君が焼夷弾の直撃を受けて非業の最期を遂げてから、33年になる。そこで、開会に先立って、同期の正義寺住職・辻彰君の読経のもとに、1年遅れの三十三回忌の法要を営み、全員が焼香して、往時を偲び、心から両君のご冥福を祈った。

今回はじめてご出席くださった浜田先生からは、新時代に即応すべく運動部や文化部の再建に努力された秘話を承った。また、同期生による卓話もすでに3回目を迎えて定着した感があり、今回は、マスコミの実践者と研究者という趣向で行われた。同志社大学文学部教授としてユニークな研究で大活躍中の北村日出夫君が「見ることと触ること」と題して特異の文明批評を展開すれば、日本経済新聞社編集委員の河塚順一郎君は「私の履歴書」裏ばなし」と題して滅多にきけぬ「裏ばなし」を披露、いずれも興味津津、ただ時間の少いことだけが惜しまれた。

酒宴に入ると、師弟ともども、和気藹藹、才気煥発、稚気は愛すべく、色気は衰うべくもなく、今春北野をご退職の佐賀先生などは、赤シャツよろしく壮者を凌ぐばかりの勢い。宴酣にして応援歌の大合唱、日蓮拍子、ガンバリ拍子等々も往時のままに、校歌の斉唱と恒例のキスの一発じめにて、盛會裡にお開きとなった。当夜、北新地の名のある所所は、深更まで、六稜健児の群で埋まった。(秋本守英記)



日蓮拍子

浜吉正章君



六稜六五会 (昭和28年卒) 卒業25周年総会

有馬観光ホテルにて

一泊二日の豪華版!!

昭和53年5月20日午後1時、貸切バス2台で新大阪駅を出発、車中談話をしながら、一路須磨寺へ。須磨寺では兵庫県無形文化財小池美代子先生らの演奏される須磨琴(一絃琴)を鑑賞し、そのあと小池先生の名(迷?)解説のもと、須磨寺の境内を見学。次第に修学旅行らしいムードがかもし出される中、再びバスにて宿泊地有馬観光ホテルへ。

午後6時すぎ開宴。男女交互に坐り、お互いに老けた(?)相貌のなかに、往時の懐を探り合いながら談話するうち、酒宴もようやく酣となる(このあたりは25年前の修学旅行であれば考えられないこと)。)

翌5月21日、午前中自由行動。午後0時半、当日参加者も交えて総会。恩師5名を加え男女合計131名の参加を得て盛會裡に終了した。(満臨記)

六稜六五会 卒業25周年総会

於有馬グランドホテル S53. 5. 20



叙 勲

○昨年4月29日

岩田久二雄氏 瑞三(37期元神大農)
名誉教授

平井平八郎氏 旭三(37期元市大工)
名誉教授

○昨年11月3日

松倉豊治氏 旭三(37期元阪大医)
名誉教授

山口正義氏 旭三(37期厚生省局長)
現結核予防会理事長

○ 栗飯原健三氏(大正5年卒)

本年2月11日、御来日されたノルウエー皇太子殿下よりセント・オラーフ勲章を受けられました。

叙勲うら話

栗飯原健三

大正12年にノルウエーの山とスキーに興味を持ち、ノルウエーのペンフレンドと文通の傍らこの国のスポーツ紙には日本のスキー・スケートの記事など寄稿し極東通信員となる。戦後は宗教新聞にもキリスト教其他の宗教など投書し通信員となっています。

昭和37年大阪の商社の停年退職を機にノルウエー親善訪問四回。国際親善の旗で叙勲。80歳ですが老後の生き甲斐は「ノルウエーの道」一筋です。

寺島先生を想う

喜悅新一(37期)

寺島先生が83才で8月3日亡くなられた。

大正13年卒業の我々には親しみの深い先生であった。東洋歴史を担当され、3年生の時は級頭であったから、いろいろ御世話をして下さった。始業の鐘が鳴ると、まっ先に教員室を出られるので「エンゲン」(消防車の意味)の紳名をさし上げた。朝礼の際の校庭の駆け足には、我々と一緒に走られたが、肥満体の先生には可成りの努力であったと思う。教員室で雑談の本を手にして居られるのを見て、感心したこともあった。その後教壇を後に、市役所に転ぜられ、西成区長に昇進、また地裁の調停委員として活躍せられた。晩年は、幸福な御家庭で悠々自適の日々を過され、我々の「三七会」には、よく御出席下さった。「六後三七会便り」を毎年発行しているが、今回は、先生の思出を集めて、第5号を編集したいと計画している。

お葬式の当日、御霊前60年の昔の「北野」の頃が思い出されてならなかった。寺島先生のことは、いつまでも我々は忘れることはないであろう。

私

信

息子の急死に思う

住島綱一(48期)

誰しも自分の息子が親と同じ北野高校に入れたらと思はない者はないでしょう。

区域制の問題はあるにしろ、六後同窓会名簿に親と子が卒業年度こそ違へ、其処に住島の苗字で息子の名を見る事は愉快でもあり、一種の誇りを感じる。名門校の卒業により実社会に出て母校の名を挙げる事に誰しもが自負した事でしょう。

長男が幸い北野高校にバスした時の親の喜びは、これで同姓の名が名簿に載ると思嬉しきは格別であった。

息子は昭和44年(第81期生)北野高校卒、二浪の後神戸大学農学部を卒えて昭和50年3月大洋漁業社に入社、同時にクラスメートと結婚、何もかも、とんとん拍子で、親に心配も苦勞も掛けない後輩でもあった。

昨年3月東京本社より関西出身の事でもあり大阪支社に転勤、其間初孫準君誕生、これからは両者の家も近くなるし、家内も孫の顔が気軽るに見に行けるので張り切っていた。

好事度多。去る6月3日早朝、突然日頃病氣一つなかった元気な身体なのに、急性心不全で他界、暫くは誰しもが其の死を信じられず、人生の無常を感じさせられた。

一人息子の急死により、この住島の家名を継ぐ次代が逝き、孫の準君が残されたのはせめてもの慰めであった。

住島の姓は日本全国で未だ同姓はなく、明治後半迄大阪市内に1、2軒あったのみでいづれも其後絶家し私の家文になった。友人連中にも同姓の人があれば知らせてと頼んだが見付かっている。

住島姓としては明治初年以後でそれ迄は堂嶋の米穀仲買人として住吉屋の屋号で代々喜信を名乗り寛政年間から二百年位続いているのが過去帳で判明している。明治の中頃祖父が米相場で失敗、没落現在に及んでいる。

日本全国で一億数千万人の人口なのに同姓がないのは不思議なものであるが、息子に次代を期待していた丈に、住島姓のこの種少価値を高めるべく何としても残念で堪らない。

初盆を旬日に控えて故人の冥福を祈ってやまない次第です。

たずね人その後

前号10号に写真入りでたずね人を掲載致しましたところたちまち反響があり、59期の諸君と判明しました。なお写真はそのまま、溝脇が預っておりますので、関係者でご希望の方は申し出て下されば幸いです。

なお、さがし主の大隈正様のお手紙も合わせておよみ下さい。

前略

去る9月30日、御送付下さいました、貴校の六後同窓会誌確かに落手致しました。

その誌面に探ね人欄として、小生の御配慮の趣きを知り有難く存じました。早速日曜日に、当時を思い出された方がおられまして、お電話を頂き感激致しました。

御丁寧な労いの御挨拶まで頂きましてこれに越した喜びは御座いません。クラスメートの方にはその方が御連絡下さると承りこれで私の微意は達したので満足に存じ居りますので、これ以上御手を患はず所存は御座いません。現社会に御活躍を知って何よりと存じています。

私は老癯の身として未来はありません。過去の懐愁に耽って取り残した道づれの整理に、今日を生甲斐として生きています。

その終末近くになって、忘れずに礼節を守って御挨拶頂けただけでも、私は私の行為が無駄でなかったと自画自賛致しております。

有難う御座いました。心から御礼を御申し伝え下さい。

昨今の若い学生さんの心境は、私には到底察知出来ない遠隔感さえ感じていますが、これも時代の流れでせう。然し、誠と信、の二字は昔も現在も変わるとはならないと存じます。矢張り、北中の学生だけに本当に満足でした。老人のたわ言、長々と御好誼に甘えて申し訳御座いません。御寛容の程お願い致します。

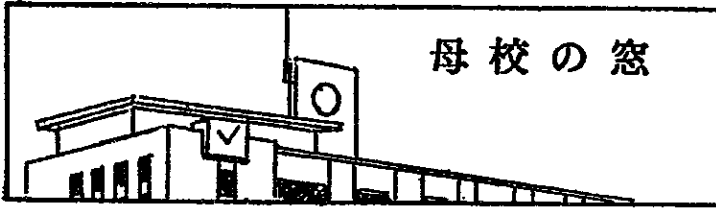
お別れに一句浮びましたので御挨拶と致します。

“ほころびし布地に糸も
添はぬ丈”

頓首

溝脇様

大隈 正



母校の窓

御祝い

菊川暎人、田中博、阿部八重、河原剛各先生が昭和52年11月3日に大阪府教育委員会より、25年勤続表彰を受けられました。

御不幸

田畑信先生 [(S 3~S 22)体操 剣道] 小関伊太郎先生 [(S 6~S 13)修身] がおなくなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

職員異動

金養佐太郎先生 (S 18~S 53) 化学 佐賀真一先生 (S 22~S 53) 生物 真田重雄先生 (S 23~S 53) 数学 加藤肇男先生 (S 48~S 53) 社会 太田 保先生 (S 48~S 53) 化学 の各先生がご退職になられました。

なお、金養先生は予備校で真田先生は金蘭千里高校で太田保先生は府立柴島高校で教鞭をとられます。又加藤先生は愛知県立一宮高校に御転任。佐賀先生は悠々自適の日々を楽しんでおられます。

又、新しく尾野光夫先生 (化学) を市岡高校より、猿田茂先生 (化学)、鳥飼康子先生 (化学) を新任としてお迎えしました。

人事異動

同窓会主任に溝崎正巳先生 (S 28 本国語) が就任されました。よろしくお願い致します。

年会費納入ベストテン

第1位	65期 (昭和28年卒)	73,000
2位	63期 (26年卒)	67,000
3位	64期 (27年卒)	62,000
4位	47期 (9年卒)	57,000
5位	56期 (18年卒)	53,000
6位	62期 (24年卒)	51,000
	(25年卒)	
7位	49期 (11年卒)	50,000
8位	45期 (7年卒)	49,000
9位	48期 (10年卒)	48,000
9位	57期 (19年卒)	48,000
9位	72期 (35年卒)	48,000

クラブだより

53. 8. 1 現在

【バスケットボール】

第32回大阪高校総合体育大会52-77対東淀川負(1回戦)、第25回大阪高校新人大会兼第25回近畿高校大会大阪予選兼第8回全国高校選抜優勝大会対吹田東不戦勝(棄権により)(1回戦)75-107対浪商負(2回戦)、第32回全国高校(府予選)74-63対柴島勝(1回戦)、81-46対浪速勝(2回戦)、47-75対豊中負(3回戦)

【女子バスケットボール】

大阪府立高校リーグBブロック62-56対東淀川勝、70-76対池田付属負、56-60対茨木負、44-51対三島負、69-61対東豊中勝。

第25回大阪高校バスケットボール大会新人大会61-52対高槻南勝(1回戦)80-30対浪商負(2回戦)

第32回全国高校バスケットボール選手権大会大阪府予選62-51対三島負(2回戦)

【山岳】

7月ボッカ愛宕山。8月2-6日夏山(折立-太郎平-黒部五郎-三俣-双六-新穂高)。11月比良。2月金剛山(日帰り)。5月6-7日全国大会予選一次岩湧山。5月27-28日北山。6月4日全国大会予選二次蓮葉峽(一、二次予選結果34チーム中13位)。6月25日新人歓迎会。7月15-16日六甲。7月20-22日ボッカ愛宕山。

【オーケストラ】

新入生歓迎演奏会、ベートーベン交響曲第5番「運命」第1楽章、シュトラウス「かじやのボルカ」、アンダーソン「シンコペーテッド・クロック」文化祭における演奏、ベートーベン交響曲第3番「英雄」第1楽章、Jn. シュトラウス「芸術家の生涯」合宿8月16-18日モーツァルト交響曲36番「リンツ」の練習。

【剣道】

52年8月大阪高校総体剣道大会男子の部2-3対枚方高校負(1回戦)、女子の部0-1対桜塚高校負(2回戦)、1回戦不戦勝。

52年11月第20回北摂学校剣道大会男子の部3-1対春日丘高校勝(1回戦)、1-2対豊中高校負(2回戦)、女子の部1-2対池田高校負(3回戦)、1、2回戦不戦勝。

53年6月第25回全国高等学校総合体育大会剣道競技大阪府予選男子の部個人戦渡辺対森本(柴島高)負(1回戦)、村尾対松本(東淀川高)負(1回戦)、団体戦1-4対旭高校負(1回戦)。女子の部個人戦村田対中道(河南高)負(1回戦)、小川対稲葉(教大池田)負(1回戦)団体戦3-0対四天王寺高校勝(1回戦)、1-2対成蹊高校負(2回戦)。定期戦対天王寺高校男子7人戦0-5(2引き分け)負 女子6人戦0-6負

【卓球】

52年8月大阪高校総体男子チーム戦3-0対北淀勝(1回戦)、3-2対都島工勝(2回戦)、3-2対八尾東勝(3回戦)、3-1対清水谷勝(4回戦)ベスト8入り、0-4対淀川工負(5回戦)52年11月1年生大会男子シングルス徳村直継、府下ベスト8

53年5月インターハイ予選男子チーム戦4-3対枚方勝ベスト8(近畿大会に出場)1-4対近大附負(準々決勝)女子チーム戦3-1対大手前勝(1回戦)1-3対布施負(2回戦)定期戦

52年11月秋季定期戦12-3対市岡高勝 53年6月春季定期戦10-5対市岡高勝 53年4月定期戦11-4対天王寺高勝

六稜短信

S 48卒・渡辺美津子

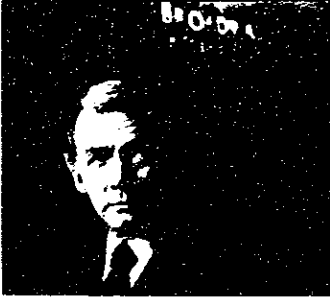
現在、就職して半年になります。薬剤師・臨床検査技師の両方の国家試験にも合格してのんびり暮らしています。就職した検査部の部長は旧北野中学卒の林泰三氏です。

去年まで年会費を2回払ったのですが、それはどうなるのですか。

【そのような時は事務局へお知らせください。調査の上払い戻しをいたします】

大学合格者一覽表 (53. 4. 10現在)

国立1期	男	女	計	岐 大	1	1	2	東京女医大	1	1	1	帝塚山学院大	1	1	合 計	2	2	
北海道大	4	1	5	滋 賀 大	7	7	7	東京理科大	3	3	3	帝塚山大	2	2	就 職	男	女	
東 北 大	3	1	3	京都教育大	3	3	3	日 本 大	3	3	3	武庫川女大	8	8	大阪瓦斯KK	1	1	
筑 波 大	1	1	2	京都工機大	5	1	6	武蔵野美大	1	1	1	兵庫医大	1	2	3	日本興業	1	1
千 葉 大	2	2	4	大阪外大	4	3	7	明 治 大	2	2	2	川崎医大	1	1	1	日本精工KK	1	1
お茶の水女大	1	1	2	大阪教育大	1	20	21	明 治 薬 大	1	1	1	天 理 大	1	1	1	合 計	3	3
東 京 大	11	1	12	奈良教育大	1	1	1	早 稲 田 大	18	1	19	松 蔭 女 大	2	2	51年(1昨年)			
東 工 大	1	1	2	和歌山大	1	1	1	東京電機大	1	1	1	岡山理科大	1	1				
一 橋 大	1	1	2	山 口 大	4	4	4	京都外大	1	1	1	久 留 米 大	1	1	国 立	184	75	
金 沢 大	1	1	2	愛 媛 大	3	3	3	京 都 産 女 子	2	2	2	合 計	231	234	465	公 立	14	8
滋 賀 医 大	1	1	2	鹿児島大	2	2	2	京 都 女 子	6	6	6	題 名	大 男	大 女	21	198	180	
京 都 大	63	10	73	合 計	56	32	88	京 都 美 大	3	20	23	大阪社会事業	1	1	1	短 大	25	25
大 阪 大	43	12	55	公 立	男	女	計	同 志 社 大	63	18	81	大阪府立看護	2	2	2	準 大	1	1
大 神 戸 大	19	16	37	岐 阜 大	3	1	4	同 志 社 女 子	3	3	3	阪 大 医 療 技 術	3	3	3	健 児 大		
奈 良 女 大	6	6	12	京 都 府 大	2	2	2	ノートルダム女大	3	3	3	京 大 医 療 技 術	1	1	1	合 計	397	288
鳥 取 大	2	2	4	京 都 府 医 大	3	1	4	仏 教 大	1	1	1	京 都 府 立 女 子	2	2	2	52年(昨年)		
鳥 取 医 大	2	2	4	大 阪 大	1	1	1	立 命 館 大	17	24	41	金 澤 短 大	5	5	5	国 立	194	90
岡 山 大	1	1	2	大 阪 市 大	3	4	7	竜 谷 大	2	2	2	成 蹊 女 子	1	1	1	公 立	18	13
広 島 大	1	1	2	大 阪 府 大	4	1	5	大 阪 医 大	12	4	16	岡 西 外 務	1	1	1	私 立	253	217
徳 島 大	1	1	2	神 戸 外 大	2	2	2	大 阪 芸 大	1	1	1	大 阪 基 礎 科	1	1	1	短 大	31	31
九 州 大	1	1	2	姫 路 工 大	1	1	1	大 阪 工 大	1	1	1	松 蔭 短 大	2	2	2	準 大	3	3
長 崎 大	1	1	2	奈 良 医 大	3	3	3	大 阪 商 大	3	1	4	京 都 女 子	11	11	11	健 児 大		
合 計	157	51	208	和 歌 山 医 大	1	1	1	大 阪 神 経 女 大	2	2	2	平 安 女 子	1	1	1	合 計	468	351
国立2期	男	女	計	合 計	18	12	30	大 阪 薬 大	15	15	15	嵯 峨 美 術	1	1	1	53年(本年)		
帝 京 大	2	2	4	私 立	男	女	計	岡 西 医 大	20	22	42	合 計	32	32	国 立	213	83	
秋 田 大	1	1	2	福 島 学 園 大	1	1	1	岡 西 外 大	2	2	2	準 大 学	男	女	計	公 立	18	12
宇 都 志 大	1	1	2	自 治 医 大	2	2	2	岡 西 外 大	2	2	2	防 衛 医 大	2	2	2	私 立	231	234
埼玉大	1	1	2	聖 心 美 術 大	28	28	28	近 畿 大	3	6	9	防 衛 大	3	3	3	短 大	32	32
東京南大	1	1	2	宇 野 院 大	1	1	1	甲 南 女 大	2	2	2	筑 波 大	1	1	1	準 大	7	7
東京外大	2	2	4	国 立 基 礎 科 大	1	1	1	甲 南 女 大	2	2	2	駒 沢 大	1	1	1	健 児 大	3	3
横浜国大	7	7	14	上 智 大	1	1	1	神 戸 女 子 院 大	12	12	12	合 計	7	7	7	合 計	469	364
信 州 大	3	2	5	中 央 大	4	4	4	神 戸 女 子 薬 大	29	29	29	各 種 学 校	男	女	計			
静岡大	5	5	10	津 出 産 大	3	3	3	観 和 女 大	1	1	1	岡 西 医 学 大	1	1	1			
名古屋大	6	6	12	東 京 女 子	1	1	1	岡 西 学 院 大	35	22	57	カレッジナレッジ	1	1	1			



デビッド・ジャンセンをキャラクターに、
アダルトのシックな着こなしを追求するメルボです。

メルボ紳士服株式会社 代表取締役 **橋本貞保** (53回生)

—胃腸科外科—
医療法人 天道会
外科小林病院
豊中市東豊中町6-24-8
TEL 06-848-2011 (代)
院長 小林 淳一 (S20卒)

プロフィール



電算機で英語を点訳する 装置を開発した

伊藤彰彦君 (62期)

大阪・船場の真ん中、井池間屋街の一角。雑然としているけれど、活気あふれる井池のふん囲気を、そのまま持ちこんだような事務室。社長室や応接室のような「見てくれ」(外見)だけの設備調度は一切ない。社員とおなじ型の机を並べているので、初めてのものには、だれが社長か見分けがつかない。

「頭の中に、いつも十ぐらいはテーマが浮かんでいます。それをずうっと温めといて、ある程度まで浮かび上がってきたら、パッとやる」点訳を電算機にやらせてみたら、というのもそうしたテーマの一つだった。「これぐらいのこと、当然どっかで開発済み、と思って調べてみたんですがね、やってないんです。採算がとれんからでしょうね」

所属する大阪東ロータリークラブの若い人たちが社員にも手伝ってもらって、毎分1,200行の匿名点字を打つ装置を一昨年夏に開発した。続いて昨年夏には英語の点訳装置の開発にも成功、アサヒビニングニュース連載の「日本むかし話」を点訳して、アメリカなど四カ国のロータリークラブを通じて点字図書館、盲学校に寄贈した。

生まれは東京・日本橋だが、もの心つく前から大阪へ移って船場育ち。大学を出て紡績会社に入ったが、繊維業界の先行きを見越して独立、いまのデータ処理サービス会社をつくった。べつに数学や機械につよかったわけではない。アメリカではコンピューターで事務処理をしているという新聞記事がヒントだった。「それに、おなじやるなら職業別電話帳にのってない商売をやったろ、思いましてね」

趣味は、初段の碁をはじめとして将棋、ゴルフ、謡曲……。「なんでもやります。一つの趣味をやれば、なにか一つのものを得る」いつも、前へ、前へと歩いている人生。今晚死んでも悔いることはない、そう思って毎日を生きている。

繊維問屋に生まれ、大阪府立北野高校から昭和29年大阪市大工学部卒。株式会社大阪計算センター取締役社長。本年、国際交流と盲人福祉の努力により国際ロータリーの「意義ある業績賞」を受賞。46歳。

(53.3.1 朝日新聞朝刊より転載)

編集後記

三伏の炎暑がつつき、草木も人も息絶えだえでしたが、今日九月四日、やっと待望の雨が降りました。秋は近し。菊の香かおる総会の日ももうすぐです。最終校正を終ってハタと困惑したのは、65期以降の同窓生諸君の声があまり出ていないことです。しかし、これではやはりアンバランスでしょう。社会の中堅に到るまでの期間は無我夢中で、何かと御多忙なことは山々お察ししますが、やはり誰かがまとめ役になって同期同世代の率直な声を全体に反映する糸口を掴んで下さらなくては。青春とは年令にあるのではなく、人の心の在り方にあるのだ、とか申します。活気に満ちた音信をどんどんお送り下さい。(山本次郎)

校歌「六稜の星のしるし」

の作曲者 岡野貞一氏は
「春が来た」「水師營の会見」
の作曲者!!

岡野貞一氏は明治11年(1878)2月16日、鳥取県邑美郡古市村の鳥取藩士の家に出生。同地の高等学校卒業後、漢学の修業もされた。

26年4月、岡山の私立藏陽学院に入塾して28年6月まで在学。この頃同市で、組合教会(コングレゲーションナルチャーチ)派の米人宣教師アダムズ(岡山博愛託児所創立者)、アリス、及びベッティの三師等にその楽才を認められて、音楽に志した。

29年9月、上野の東京音楽学校(正式の名は、26年9月から32年3月までは高等師範学校付属音楽学校)の予科に入学し、33年7月、専修科を卒業。9月、研究科に入学し、同時に授業補助を命ぜられた。

明治39年10月、東京音楽学校助教授に任ぜられ、その後は、中等教員講習会講師、文部省著作の「尋常小学読本唱歌」編集委員や「尋常小学唱歌」の作曲委員等に任命。

大正12年6月、東京音楽学校教授に任ぜられ、その後は、生徒監事務取扱、生徒主事、管弦楽(チェロ)部員、及び教務課長等に任命された。

昭和16年(1941)12月29日、日大付属病院で御永眠、満63才。東音に在職35年。墓は多摩墓地(東京都)に在る。

なお、先生の作曲には、「春が来た」、「日の丸の旗」(共に、高野先生作詞)、「三才女」(芳賀矢一作詞)、「水師營の会見」(佐々木信綱作詞)、「桃太郎」、「藤中佐」、「夜の梅」、「児島高德」(以上四曲は作詞者不詳)等がある(同声会前会長井上武士氏著「日本唱歌全集」昭和47年12月、音楽之友社刊による)。

“ネエ、みんな大きくなったら何になる?”

子供は楽しい夢を見ている
それかやがて、新しい時代を築く豊かな
ものへひろがってゆくのです
21世紀につながるこの子たちを、
強かく伸びやかに
育ててゆくこと、
そのために東洋紡も
お役にたちたいと
考えています。

